

備中國巡覽大繪圖

平成26年度企画展 池田家文庫絵図展

OKAYAMA HAN AND THE MEIJI RESTORATION

岡山藩と明治維新

2014



平成26年度 池田家文庫絵図展「岡山藩と明治維新」図録 正誤表

頁	番号	箇所	誤	正
4	3-1	整理番号	S1-200-4	S1-200-3
4	3-2	整理番号	S1-200-3	S1-200-4
26	3-1	整理番号	S1-200-4	S1-200-3
26	3-2	整理番号	S1-200-3	S1-200-4

平成26年度企画展 池田家文庫絵図展
OKAYAMA HAN AND THE MEIJI RESTORATION
岡山藩と明治維新

会期 平成26年11月1日(土)～11月16日(日) 会場 岡山シティミュージアム 4階企画展示室

主催 岡山大学附属図書館、岡山シティミュージアム

後援 岡山県教育委員会・岡山市教育委員会・山陽新聞社・中国新聞備後本社・朝日新聞岡山総局
読売新聞岡山支局・毎日新聞岡山支局・NHK岡山放送局・RSK山陽放送・OHK岡山放送
TSCテレビせとうち・KSB瀬戸内海放送・RNC西日本放送

ごあいさつ *Greetings*

岡山大学附属図書館と岡山シティミュージアムは、共同で企画展池田家文庫絵図展「岡山藩と明治維新」を開催いたします。本展覧会は、岡山大学と岡山市の文化事業協力協定に基づく事業であり、本年度10回目を迎えました。

本展覧会は、岡山大学附属図書館が所蔵する江戸時代の備前岡山藩池田家の藩政資料である池田家文庫を、広く地域の皆様に公開し、親しんでいただくことを目的に企画しており、池田家文庫の特徴のひとつである地図資料「絵図」を中心に展示しています。

昨年は、嘉永6年（1853）のペリー来航から文久3年（1863）頃までの岡山藩の動きを、「海防」を中心に紹介しましたが、本年は、それに続く明治維新の頃を取り上げます。当時、国内は「内戦」状態となり、岡山藩では各地に兵士や軍夫を派遣しています。こうした状況のもと、長州戦争、戊辰戦争、大政奉還、神戸事件、廃藩と岡山県の成立などを経て、岡山藩の終焉を迎えました。このような政変を、池田家文庫に残された絵図や文書の中から選びました約60点の資料によりご紹介いたします。

この池田家文庫絵図展で皆様が、岡山ひいては日本の歴史に興味や関心を抱き、池田家文庫を地域の共有の財産であると感じていただければ、主催者として望外の喜びと存じます。

2014年11月1日

岡山大学附属図書館
館長 沖 陽 子
岡山シティミュージアム
館長 行 正 彰 夫

関連行事 *Event*

オープニングトーク

日時 平成26年11月1日(土) 午前10時～午前10時30分

場所 岡山シティミュージアム 4階企画展示室

講師 岡山大学大学院教授 倉地克直氏

講演会「幕末維新期の岡山」

日時 平成26年11月8日(土) 午後2時～午後4時

場所 岡山シティミュージアム 4階講義室

講師 東京大学名誉教授 宮地正人氏

凡例

- 1 本図録は、岡山大学附属図書館と岡山シティミュージアムが平成26年11月1日(土)～16日(日)まで開催する『企画展 池田家文庫絵図展「岡山藩と明治維新」』の図録である。
- 2 展示番号と本書の図版番号、展示資料目録に記した番号は一致する。また表記は図版番号、資料名、頁数、年代、池田家文庫整理番号、法量（タテ×ヨコ、cm）の順に記した。番号横に*を付したものは、他機関所蔵であることを示す。
- 3 本書に掲載した展示資料の写真は、岡山大学附属図書館が所蔵する絵図デジタル画像及び岡山シティミュージアムが撮影した画像である。
- 4 本書の総説・展示資料解説は、岡山大学大学院教授 倉地克直が執筆した。編集は岡山大学附属図書館と岡山シティミュージアムで行った。

目次 Contents

「岡山藩と明治維新」解説	1
出展資料解説	
(1)長州戦争から農兵隊の組織	4
(2)大政奉還から備中鎮撫へ	8
(3)神戸事件・関東東北鎮撫	13
(4)箱館戦争	17
(5)廃藩と岡山県の成立	22
出展資料目録	26
池田家文庫絵図展・記念講演会開催記録	28

平成26年度 池田家文庫絵図展

「岡山藩と明治維新」——解説

はじめに

平成25年（2013）度の絵図展では、嘉永6年（1853）のペリー来航から文久3年（1863）頃までの岡山藩の動きを、「海防」を中心に紹介した。今年は、それに続く時期を取り上げる。この時期には国内は「内戦」状態となり、藩では各地に兵士や軍夫を派遣する。その様子と岡山藩の終焉について展示する。

(1) 長州戦争から農兵隊の組織

文久3年（1863）8月18日、条約勅許と攘夷をめぐる揺れ動いてきた京都の政局は、大きく転換する。薩摩藩・会津藩などの兵力を背景に朝議が開かれ、攘夷派が進めてきた「大和行幸」の中止と長州藩の排除が決められた。いわゆる「8・18クーデター」である。これにより三条実美ら攘夷派の公卿は、長州に走った。その後、徳川慶喜・松平容保・松平春嶽・山内容堂・伊達宗城が「朝政参予」を命じられる。「大和行幸」に反対の建白を行った岡山藩主池田茂政は、引き続き「国事周旋」にあたることとなった。

翌元治元年（1864）、巻き返しを図る長州藩は、三条ら公卿とともに兵を率いて上京するが、7月19日の「禁門の変」に敗れ、「朝敵」となった。7月23日、孝明天皇は長州「追討」を命じた。8月、岡山藩は「征長芸州路二之手」を命じられる。しかし、「禁門の変」以前にも長州藩から朝廷への周旋を依頼されていた岡山藩では、出兵に慎重な意見が強く、長州藩からの「謝罪周旋」の依頼を受けて、茂政は、「兵威」ではなく「信義」に基づいて「畏服」させるよう献言した。

第1次「長州戦争」は、長州藩が三人の家老らに責任を取らせることで決着した。しかし、長州藩内では諸隊を率いた高杉晋作らが権力を掌握し、武備を固めた。これに対して幕府は、勅許を得て再び長州「追討」の出兵を命じた。第2次「長州戦争」である。

ところが、広島への「征長」軍集結が進められていた慶応2年（1866）4月、長州第二奇兵隊の脱走浪士たちが倉敷代官所と蒔田氏の浅尾陣屋を襲撃するという事件が起きる。いわゆる倉敷浅尾騒動である。岡山藩は、浅尾藩からの要請と幕府の指示に従って軍勢を派遣するが、浪士との応接に不手際があり、結局彼らの逃走を許してしまった。幕府からの疑惑を招いた岡山藩では、責任者の池田隼人や森下立太郎らを謹慎などの処分にした。

長州戦争は、6月7日の幕府軍による周防大島攻撃によって始まった。体制を整えていた長州軍は鋭く反撃、石州口・芸州口・小倉口のいずれでも戦局を有利に展開した。岡山藩は幕府からの度重なる出兵要請に対して疑義を唱えて出兵を遅らせていたが、最終的には備後境まで兵を動かして、表面的には幕府に従う姿勢を示した。

7月21日将軍家茂が大坂城で死去、8月20日幕府は戦闘の停止を宣言した。軍事的に幕府軍の敗戦は明らかで、長州藩の軍事力への評価が高まった。8月11日かねてから農兵取り立てを建言していた森下立太郎らに農兵取り立てが命じられる。以後整備される農兵隊（初め耕戦隊、後に遊奇隊と称した）が、岡山藩軍事力の一翼を担うことになる。

(2) 大政奉還から備中鎮撫へ

慶応2年(1866)12月、徳川慶喜が第15代将軍に襲職、ついで孝明天皇の崩御をうけて明治天皇が即位した。慶喜は京都政局の主導権を握ろうと画策するが、幕府の衰退は覆いがたく、慶応3年(1867)10月には土佐藩から大政奉還の建白が提出される。広島藩からも同様の建白が出されると、岡山藩もこれに同調した。10月14日慶喜は大政奉還を上表した。12月9日討幕派による「王政復古」のクーデターが起きる。将軍だけでなく摂政・関白なども廃止され、新に総裁・議定・参与が任命される。慶喜の辞官・納地も決められたが、慶喜はこれを拒否し、大坂城に退いた。翌慶応4年(1868)正月3日鳥羽伏見の戦いから「戊辰戦争」が始まる。鳥羽伏見の戦いは新政府軍の勝利となり、慶喜は海路江戸に退去した。

1月11日岡山藩に備中松山藩「追討」が命じられる。松山藩主の板倉勝静は老中として慶喜を支えて行動をとともにしており、新政府から「朝敵」とされたからである。また岡山藩でも藩主茂政が慶喜の実弟にあたるため、病気を理由に隠退、鴨方分家の池田政詮(のちに章政)が岡山藩を継ぐこととなった。

1月18日岡山藩家老伊木若狭が松山城に入城した。家老以下板倉家家臣は新政府に恭順の意を示して、事前に城外に退去した。他方、大坂で藩主勝静に従っていた家臣たちは1月17日までに玉島に帰着し、謹慎の意を示した。岡山藩兵が玉島を包囲すると、年寄役の熊田恰は藩士の助命を願って自刃した。

足守藩や庭瀬藩などの備中諸藩は、新政府に従うことを岡山藩に通告し、引き続き支配を認められた。倉敷代官所へは岡山藩兵が進駐し、管下の幕府領は岡山藩の管理に委ねられることになった。しかし、長州戦争以来、度重なる出兵の費用が課されたため、村々の困窮はいよいよ深まっていた。加えて、山陽道筋の鎮撫については、岡山藩とともに広島藩にも命じられていたため、現地では混乱が起っていた。

慶応4年(1868)2月から3月にかけて、松山藩領はじめ備中各地で年貢納入や人足・伝馬役の賦課などをめぐって、村々で騒動が頻発した。松山藩の存続を願う願書なども村方から提出されている。

(3) 神戸事件・関東東北鎮撫

これより先の慶応3年(1867)12月28日、岡山藩は新政府から西宮警衛を命じられた。岡山藩では順次藩兵を派遣した。家老日置帯刀の一隊も翌慶応4年(1868)1月4日に岡山を出発、11日神戸を通行していた。そのとき、隊列を横断しようとした外国人とこれを阻止しようとした岡山藩兵とのあいだで衝突が起こった。神戸沖に停泊していた列国は、通報を受けると陸戦隊を上陸させ、岡山藩兵を攻撃した。神戸中心部と海上を封鎖・占拠した列国の公使団は、日本側の謝罪と賠償を強く求めた。これに対して発足したばかりの新政府は、まともな外交交渉もせず責任を岡山藩に押しつけた。藩ではこれに抗しきれず、瀧善三郎が一身に責任を負って割腹することとなった。そのときに瀧が家族に書いた遺書が伝えられている。岡山藩では瀧の遺子を召し出し、破格の500石を与えることとした。

これと前後して岡山藩は姫路城制圧にも参加し、さらに1月17日には江戸攻めのための「東海道先鋒」を仰せ付けられ、多くの軍兵が関東へ向かって進軍することとなった。4月3日江戸に到着した藩兵は、前橋藩邸に駐屯、江戸城引き渡し4月11日には桜田門より入城、西丸大手に備え、これ以後城地の警備にあたった。

その後も岡山藩兵は、幕府軍残兵を掃討するために関東各地を転戦、6月には磐城平城、三春・二本松の攻撃、さらに9月の会津若松城攻撃まで奮戦している。この一隊は会津落城後、江戸・京都を経て12月17日岡山に帰着した。関東奥州における戦闘では、農兵たちの活躍が目立った。翌明治2年(1869)正月、帰藩した農兵たちは郷土に取り立てられ、二人扶持のほか戦功賞としての給扶持も下された。

(4) 箱館戦争

明治元年（1868）10月晦日、岡山藩は総督府から精兵400人を箱館に出兵させるよう命じられた。箱館には、幕府や奥羽諸藩などの軍兵が集結し、新政府に対する最後の抵抗を試みていた。11月3日に船で江戸をたった岡山藩兵は、奥州山田湊に上陸、野辺地に移動して、ここに6か月ほど滞陣する。翌明治2年（1869）4月11日青森出船、江差に上陸した。

その後は、要所を防備する反政府軍と戦いながら箱館へ進撃、4月29日の矢不來台場攻撃や5月11日の五稜郭総攻撃にも参加した。18日反政府軍が降伏、ここに2年にわたる内戦（「戊辰戦争」）は終結した。箱館戦争における岡山藩兵の戦死者は16人、江差角力取山すもうとりやまに設けられた招魂場に祀られている。

明治2年（1869）4月29日に岡山藩が新政府に提出した報告によれば、当時、箱館出張480人、奥羽二本松出張200人、備中松山出張50人、東京在勤400人、京都在勤340人、計1,470人が出張中であった。また、「戊辰戦争」中の戦死者は計55人であった。

(5) 廃藩と岡山県の成立

これより先の明治2年（1869）1月、薩摩・長州・土佐・肥前の4藩主が版籍奉還を上表した。自主的に土地と人民を朝廷に返還することを願い出たのである。これに多くの藩主が続き、岡山藩主池田章政も2月23日に版籍奉還を上表した。こうした動きをふまえて、内戦も終結した6月17日、政府は版籍奉還を沙汰した。これにより、旧藩主はそのまま藩知事とされたが、藩主と家臣の主従関係は廃止され、藩主は華族、藩士は士族とされた。これにともなって藩の機構も大きく改変され、幕末期に活躍した下級家臣が藩の中枢に進出した。

ついで明治4年（1871）7月14日、廃藩置県が布告される。これにより備前・備中・美作には14県が置かれることになり、藩主は東京に移住するよう命じられた。これに対して各地で旧藩主引き留めの運動が起こる。岡山藩でも、岡山市中および村々から藩知事留任の嘆願が出され、大参事・権大参事連名の執奏願いが太政官に出されている。もちろん、こうした願いが聞き届けられることはなかった。

同じ時期、新しく置かれる県の人事をめぐる大参事の伊木忠澄らと権大参事森下景端らのグループが対立した。いわゆる旧藩の上層と下層との対立はくすぶり続けていたものであったが、ここにきて暴発し、県政は大混乱となった。結局、この対立は伊木や森下はじめ関係者が官を辞すことで終結に向かう。森下は大分県参事に任じられ、11月27日岡山県参事には新庄厚信が任じられた。新庄は岡山藩の下級武士出身で、幕末期に活躍、維新後は越後国柏崎県の権知事を務めていた。新庄のもとで新しい岡山県政が始まる。

なお、これより先の11月15日に、かつての14県は、岡山県（備前1国）・北条県（美作1国）・深津県（備中1国と備後6郡）にまとめられた。さらにその後いくたびかの改編をへて、明治9年（1876）4月に現在とほぼ同じ県域を持つ岡山県となった。

岡山大学大学院社会文化科学研究科 教授 倉地克直

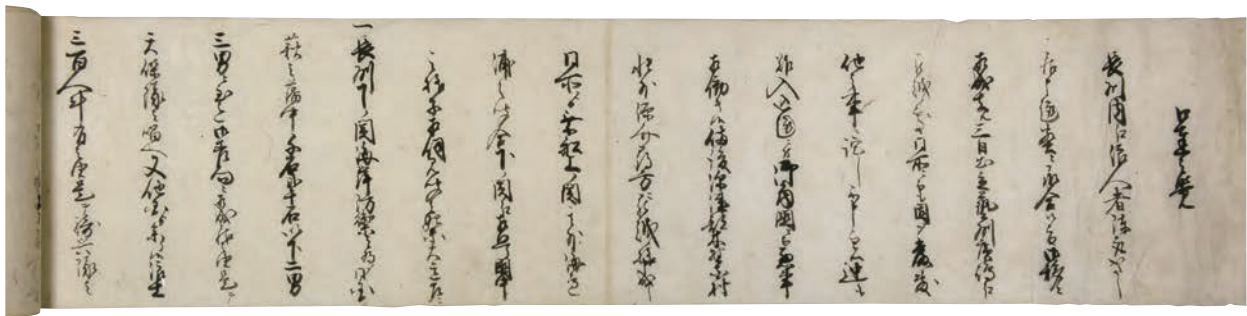
〔参考文献〕

- 『岡山県史・近代I』岡山県、1985年
- 『岡山県史・近世IV』岡山県、1989年

(1)長州戦争から農兵隊の組織

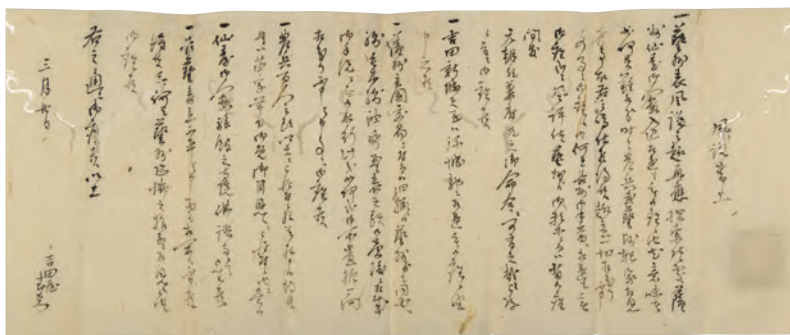
- 1 ^{せいちょうし まつ} 征長始末
2冊 未詳 S4-126-1・2
28.0×20.4

長州戦争での岡山藩の活動を記録したもの。関係史料を日付順に編纂している。いくつかの稿本があるが、本資料は7巻本を上下2冊に編集したもの。「本池田」の野紙に清書されている。



- 2 ^{く たつ の おぼえ} 口達之覚
1通 亥〔文久3年〕10月22日(1863年12月2日)
S1-174 16.0×578.8

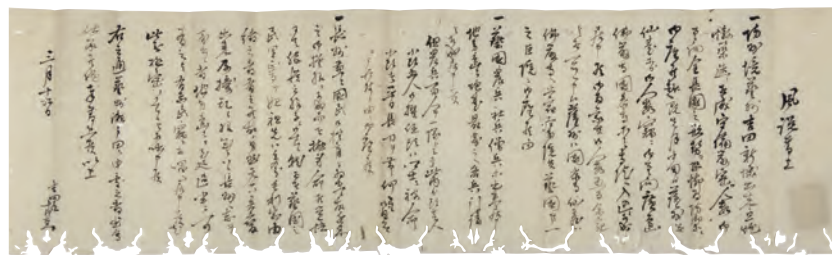
犯罪者の追跡を口実にして下関に入り込み、長州国内の様子を探索した報告書。筆者の名前は書かれていない。下関に浪士たちが集結して奇兵隊と唱えていること、その浪士が豊前小倉領で狼藉を働いたこと、長府の医者が異国船と内通していること、などを報じている。



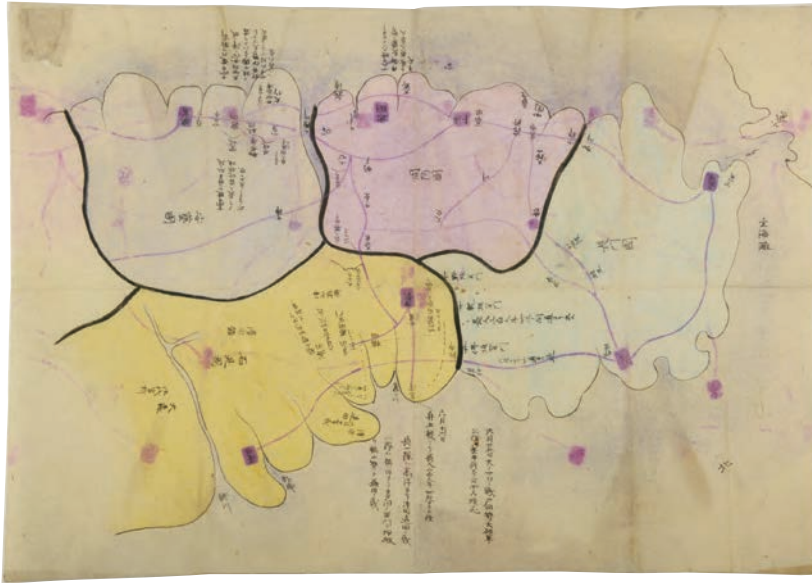
- 3 ^{よしだ やじゅうろう えもんふうせつがき} [吉田屋十郎右衛門風説書]
S1-200

岡山城下町の商人である吉田屋十郎右衛門が、廻船などから仕入れた広島藩内の様子を報告した書付。防州境の吉田新城のこと、広島藩の農兵・社兵・僧兵のこと、などが書かれている。

- 3-1 ^{ふうせつ かき あげ} 風説書上
1通 〔慶応元年〕3月20日
(1865年4月15日)
S1-200-4 16.0×40.8 包紙入



- 3-2 ^{ふうせつ かき あげ} 風説書上
1通 〔慶応元年〕3月19日
(1865年4月14日)
S1-200-3 16.0×56.4 包紙入



4 ^{ちやうしやうせいとうこうぼりやくず}
[長州征討攻防略図]
 1枚 未詳 S1-241-4 32.6×46.4
 第2次長州戦争での芸州口、石州口での戦闘について、簡略に描いた地図。小書きの日付は、6月13日から25日まで。



5 ^{せきしやうぐちせんとうず}
[石州口戦闘図]
 1枚 未詳 T12-114 38.9×118.8
 第2次長州戦争での石州口での戦闘を描いた図。地図には6月16日の戦闘の様子が書き込まれている。



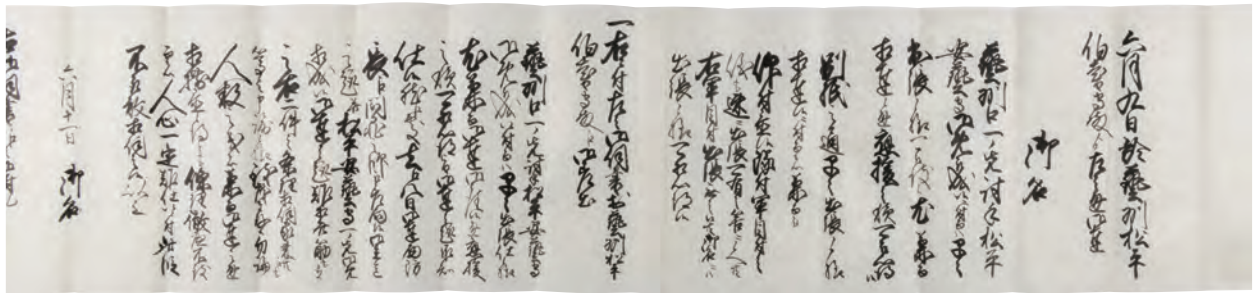
6 ^{げいしやうぐちせんとうず}
[芸州口戦闘図]
 1枚 未詳 S1-241-6 66.9×49.7
 第2次長州戦争での芸州口での戦闘を描いた図。小書きの日付は、6月6日から14日まで。

7 長藩御処置方ニ付御建白書
S3-22 包紙入



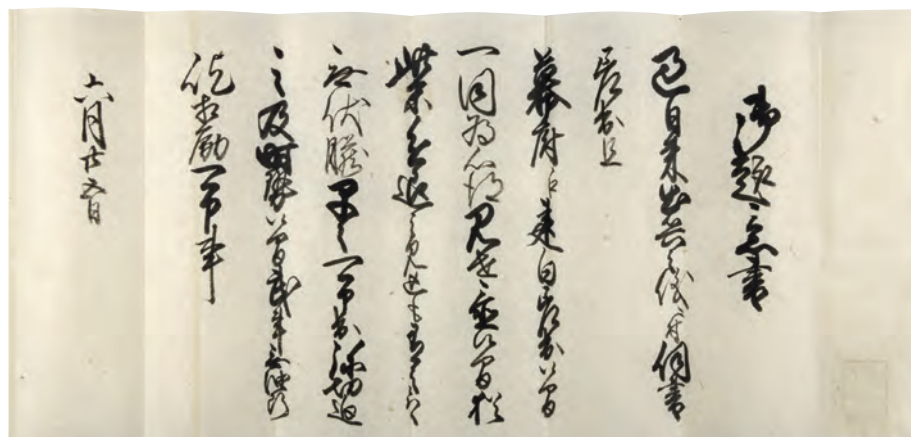
7-1 御自筆御建白写
1冊 [慶応2年]6月23日(1866年8月3日)
S3-22-1 24.4×16.3

第2次長州戦争開始後、岡山藩主池田茂政が幕府に提出した建白書。幕府の処置には一貫した条理がないと出兵に消極的な態度を弁明している。



7-2 〔御建白指出につき書付〕
1通 未詳 S3-22-2 16.0×177.7

6月9日から18日までの池田茂政と幕府とのやりとりの様子を書き付けたもの。

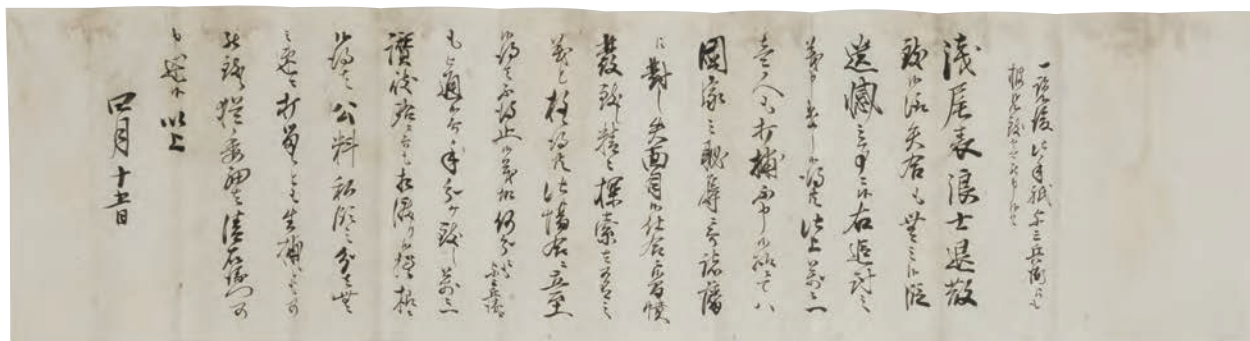
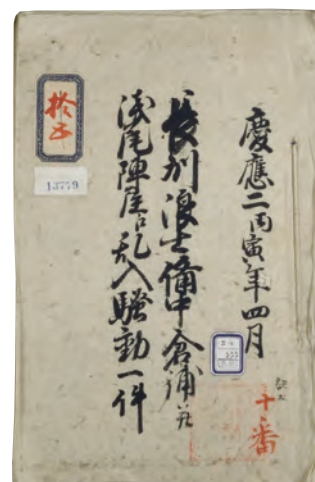


7-3 御趣意書
1通 [慶応2年]6月25日(1866年8月5日) S3-22-3 16.0×38.2

先の2点の史料を家臣に開示するにあたって、藩主が家臣たちに示した趣意書。今後の藩の方針について、腹藏なく意見を述べるよう指示している。この時期、將軍が大名に意見上申を求めたように、藩でも大名が家中に意見具申を促した。まさに上下ともに、「建白の時代」であった。

8 長州浪士備中倉敷并
浅尾陣屋江乱入騒動一件
1冊 未詳 S4-333 28.4×18.4

長州の浪士たちが、備中倉敷および浅尾藩陣屋に乱入した騒動を記録したもの。4月10日より6月朔日までの岡山藩の動きが整理されている。長州出兵についての記録を収集した留方の畳紙(写真左)に入られている。

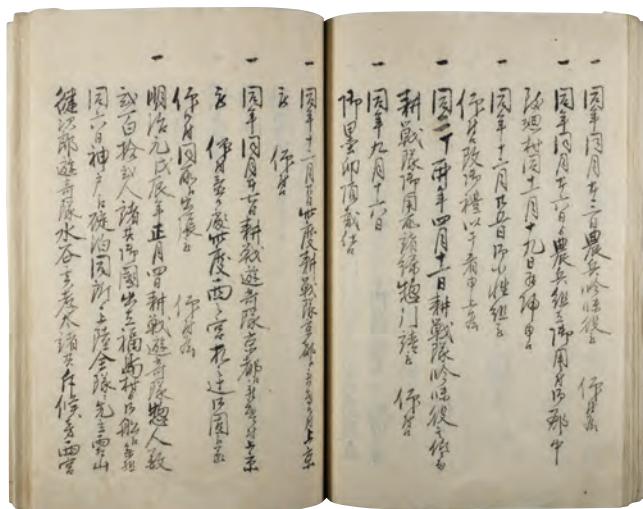


9 [池田隼人宛少将達書]
1通 [慶応2年]4月15日(1866年5月29日) S4-531 18.0×70.3

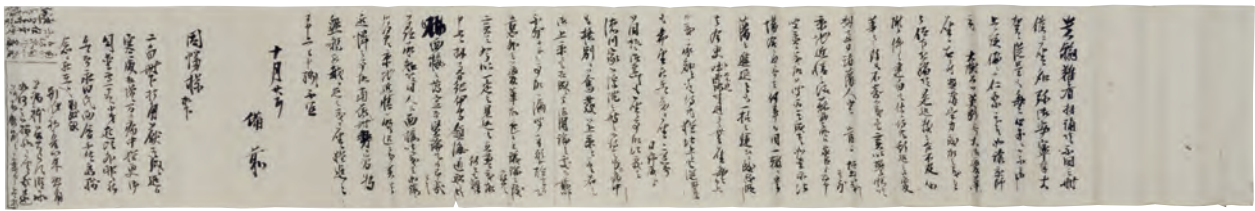
長州浪士討伐の責任者であった家老池田隼人に宛てた岡山藩主池田茂政の達書。浪士を取り逃がしたのは「国家之恥辱」として、諸方探索の上、生け捕りにするよう厳しく指示している。包紙(写真下左)に包まれた上、桐箱(写真下右)に入られている。

10 [森下立太郎奉公書]
1冊 未詳 D3-2595 27.0×19.6

幕末・維新时期に活躍した森下立太郎の勤功を書き上げた記録。森下家は農民から取り立てられた下級家臣。立太郎は倉敷・浅尾騒動で失態を犯し、その反省から農兵の取り立てを建議。戊辰戦争では農兵を率いて関東・東北を転戦した。



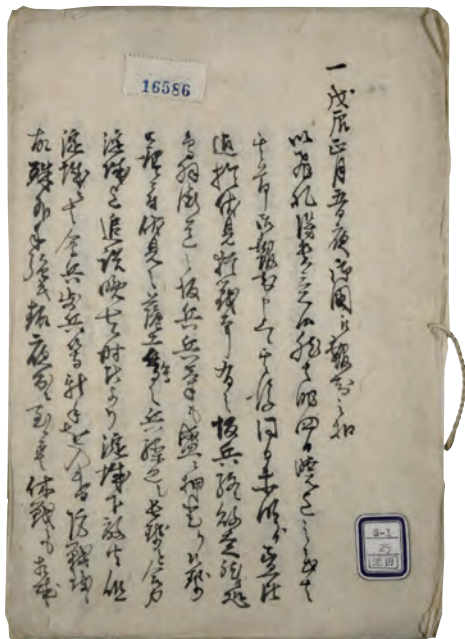
(2)大政奉還から備中鎮撫へ



11 〔因幡宛備前書状案〕

1通 〔慶応3年〕10月25日(1867年11月20日)
S1-123 19.1×120.4 包紙入

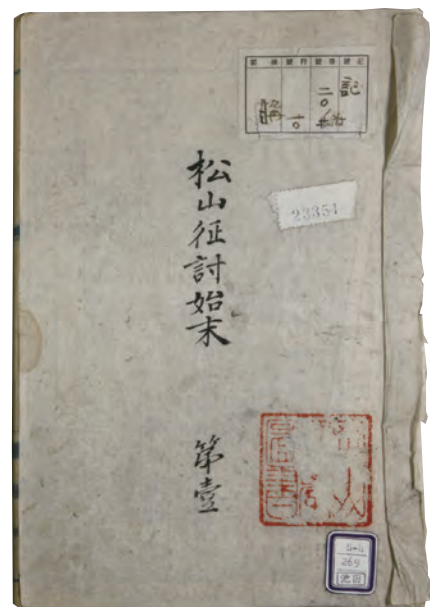
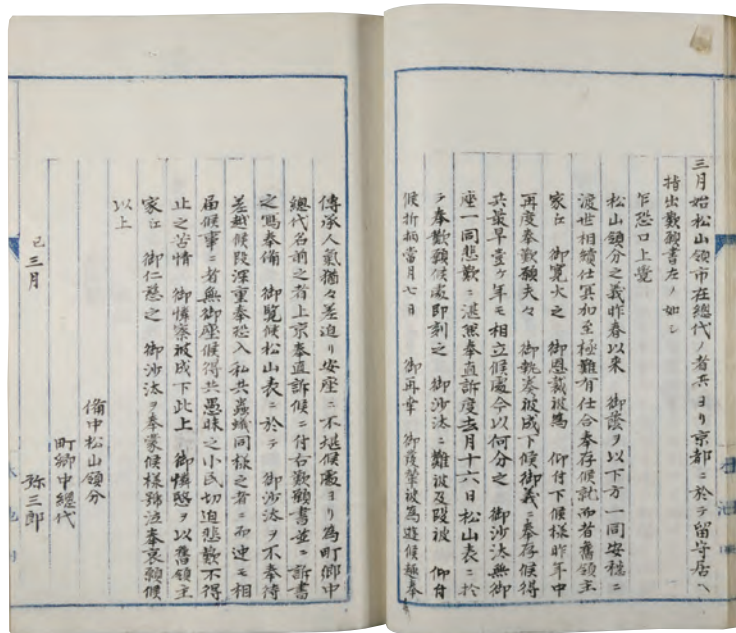
大政奉還にあたり岡山藩主池田茂政から鳥取藩主池田慶徳に宛てた書状の下書き。大変革にあたりこれまで通り両藩が「同一轍」に進退することを伝えている。



12 〔御国江報知之扣〕

1冊 〔慶応4年〕正月5日(1868年1月29日)
S1-25 25.0×17.3

正月4日の鳥羽伏見の戦いの様子、同日の朝廷周辺、大津辺の動き、などについて、京都の津田重二郎らから国元の広内権右衛門らに報告したもの。岩倉卿より、西宮守衛の藩兵を出勢させるよう要請のあったことも記されている。



13 松山征討始末

11冊 未詳
S4-269~272 S4-43~47、49、86 24.5×16.7

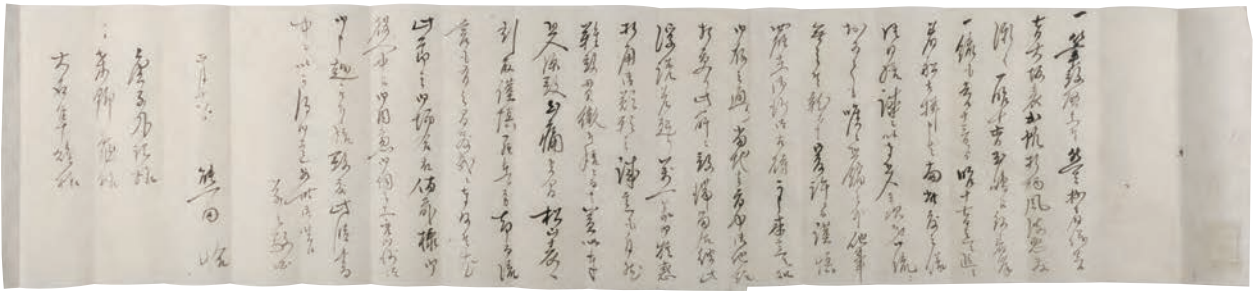
岡山藩が備中松山藩を征討するため出兵した経過を記したものの。本編4冊は、慶応4年(1868)正月9日から翌明治2年(1869)10月7日まで、関係史料を日付順に編纂したもの。附録7冊は、「村々人民沸騰事件」など特記すべき事柄を別に記録したもの。いずれも「本池田」の罫紙に清書されている。



14 備中国巡覽大絵図

1鋪 嘉永7年2月(1854年2月)刊 T1-23 132.4×85.0

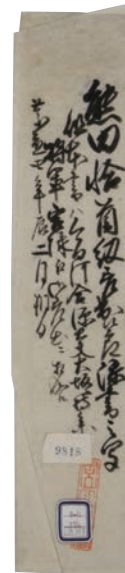
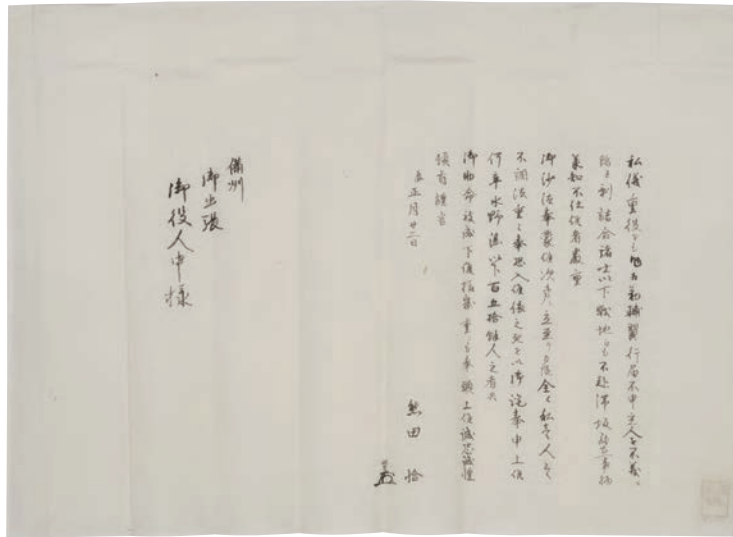
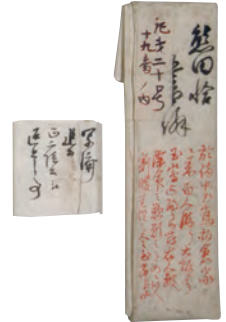
備中倉敷東本町太田屋六蔵・大坂心齋橋通北久太良町河内屋喜兵衛・同所河内屋儀助が刊行した備中国絵図。幕末期に広く流通した。本来は墨一色摺りだが、本史料では手彩色が施されている。また村々には領主別の印が付けられていて、その凡例が付紙になっている。そこには、備中松山藩領が「元板倉伊賀」とあり、備中鎮撫に際して利用されたのではないと思われる。



15 〔松山藩家老中宛熊田恰書状写〕

まつ やまほん か ろうちゅうあてくま だ あたかしよじょうつし
1通 〔慶応4年〕正月18日(1868年2月11日) S4-76 15.4×69.9 包紙入

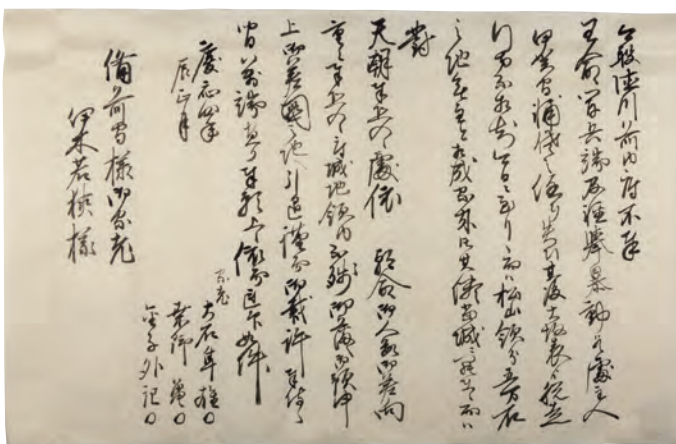
玉島に到着した家臣を代表して熊田恰が家老中に宛てた書状。流言を避けるためには松山に移って謹慎したほうがよいので、岡山藩役人に伺ったうえで沙汰してくれるようお願いしている。本紙は「正二位」に進上したと帯封にある。



16 熊田恰首級差出 候 節 添書之写

くま だ あたか しるし さしだしそうろうせつ そま がき の うつし
1通 〔慶応4年〕正月22日(1868年2月15日)
S4-374 32.0×44.6 包紙入

自刃にあたって熊田恰が岡山藩役人に提出した歎願書。主人の「不義」をとどめられなかったことなどを詫びるとともに、同行家臣150余人の助命を嘆願している。包紙上書に、本紙は大坂に持参し「將軍宮様」に差し出したとある。



17 城地御預につき

じょうち おあづけ
まつ やまほん か ろうちゅうがんしろうつし
松山藩家老中願書写

1通 慶応4年正月(1868年1月)
S4-373-2 31.8×49.6 包紙入

備中松山藩家老から岡山藩家老伊木若狭に対して提出した誓詞2通のうちの1通。城地を岡山藩に預け、指図の地に引退し、裁許を待つと述べている。包紙に、本紙は伊木若狭の手元にあると記されている。



18 ^{まつやまじょうえず} [松山城絵図]
 1枚 未詳 S4-38 80.3×109.7
 松山城の請取に際して作られた図。同種の絵図が何枚か残されている。



19 ^{びっちゅうのくにさきのまつやまじょうむらむらごうちゅうみとりえず} 備中国前松山領村々郷中見取絵図
 S4-375 袋入

松山藩預かりに際して作られた領内村々の絵図。松山川（高梁川）の西方35か村の分が一緒に袋に入れられている。村ごとに作成して提出したと思われ、様式がそれぞれに異なっている。

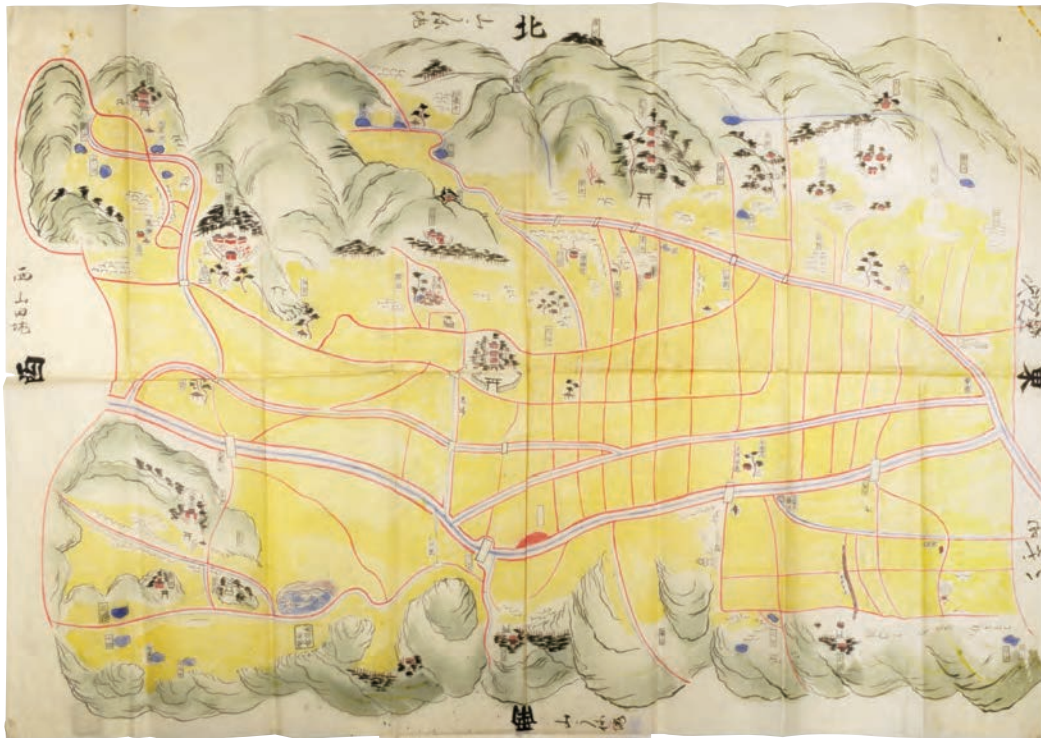
19-1

19-1 ^{てつたぐんおぎょうむらえず} 哲多郡荻尾村絵図
 1枚 未詳 S4-375-1 27.1×38.7
 端裏に「荻尾村」とあり、余白に「庄屋小川良策」の名が見える。

19-2 ^{しもつみちぐんやまだむらえず} 下道郡山田村絵図
 1枚 未詳 S4-375-24 27.2×39.5
 端裏に「山田村」とある。岡田藩領新本村との入組の様子が手前左（西南）に示されている。



19-2

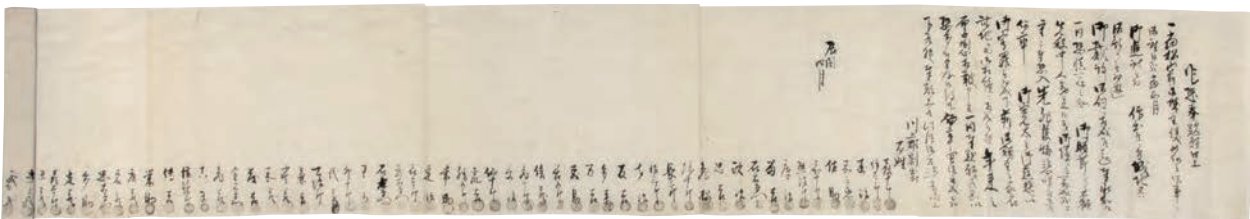


備前下道郡久代村
 東 備前御成合衆村
 西 松山御成合衆村
 南 備前御成合衆村
 北 備前御成合衆村
 慶應四年三月

19-3 下道郡久代村絵図

1枚 慶應4年3月(1868年3月)
 S4-375-33 67.3×78.2

四至の村名・領主名が付紙に書かれている。



20 年恐奉歎願口上

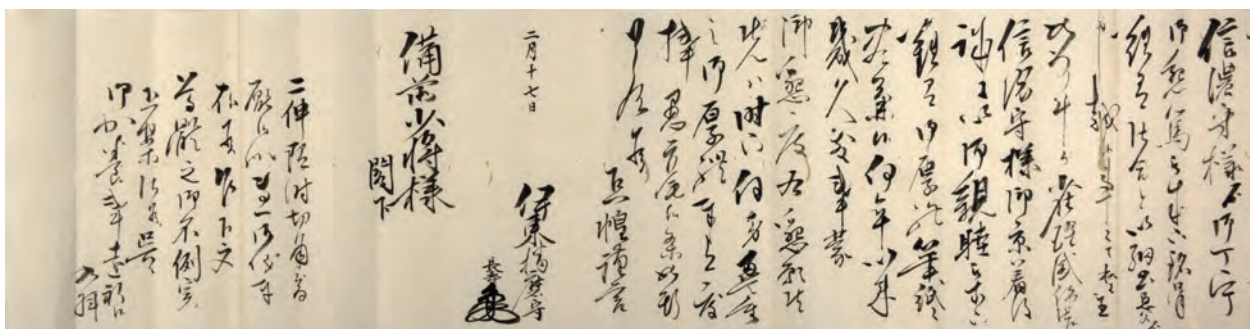
1通 慶應4年閏4月(1868年5月)
 S4-376 28.6×289.0 包紙入

川上郡割出村百姓が連判して、前領主の当地での存続を願い出たもの。兼帯庄屋が奥書して「備州御役所」に提出された。

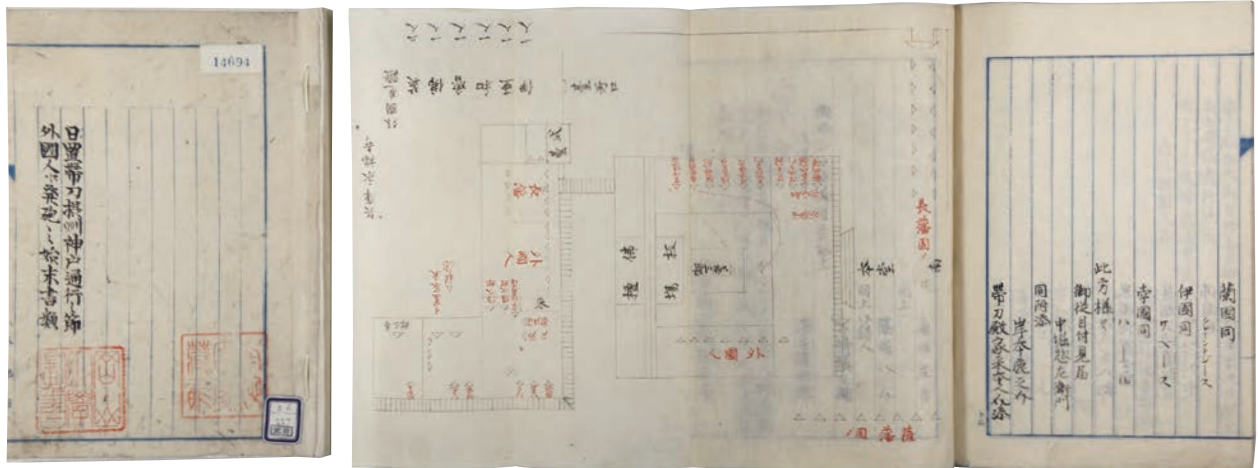
21 〔備前少将宛伊東播磨守書状〕

1通 〔慶應4年〕2月17日(1868年3月10日)
 S1-88-1 17.6×177.2

王政復古以来、種々取りなしてくれたことに対して、岡田藩主伊東播磨守長寿が岡山藩主池田茂政に感謝の意を伝えた書状。文中茂政の体調を気遣う文言が見えるが、茂政が病気を理由に引退したことに関わるものだろう。他の備中諸藩からも取りなしを謝する書状が寄せられている。



(3) 神戸事件・関東東北鎮撫

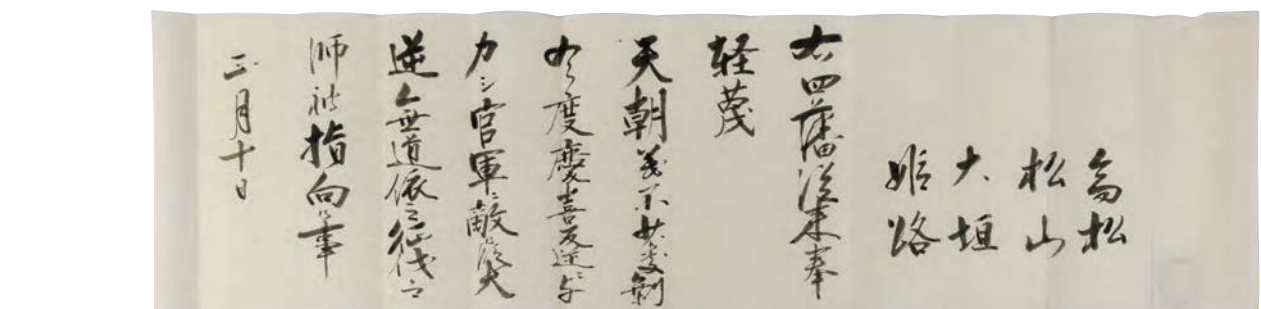


22 ^{ひき たて わき せつしゅうこう べつこう の せつ} 日置帯刀撰州神戸通行之節
^{がいこくじん えはっぼうのしまつしよるい} 外国人江発砲之始末書類
1冊 未詳 S6-117(S6-120) 24.5×17.2

神戸事件の顛末を、日付順に整理したもの。同種の冊子が何冊か残されている。本資料は「本池田」の野紙に清書されたもの。

23 ^{たきぜん さぶらうこう べ じげん ひ き か き うつし} 瀧善三郎神戸事件日置家記ノ写・
^{どうにん いしよならびに じせい うたうつし} 同人遺書并 辞世ノ歌写
1冊 未詳 S6-116(S6-123) 24.4×16.8

神戸事件について、家老日置家の記録からの抜き書き、および瀧善三郎の遺書などを編纂したもの。同種の冊子が何冊か残されている。



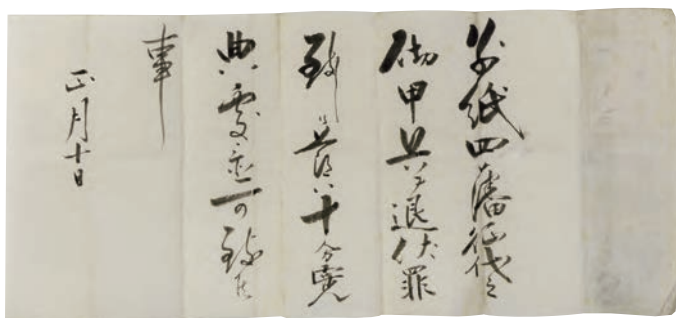
24-1 ^{しほんせいばつ たつしやうつし} 〔四藩征伐につき達書写〕
1通 〔慶応4年〕正月10日(1868年2月3日)
S4-427-6 17.6×63.7

徳川慶喜に与力した高松・松山・大垣・姫路の4藩を討伐するよう命じた新政府の文書の写し。岡山藩は、4藩のうち松山藩と姫路藩の征討に関わった。

24-2 〔四藩征伐につき添書写〕

1通 〔慶応4年〕正月10日(1868年2月3日)
S4-427-9 17.6×38.8

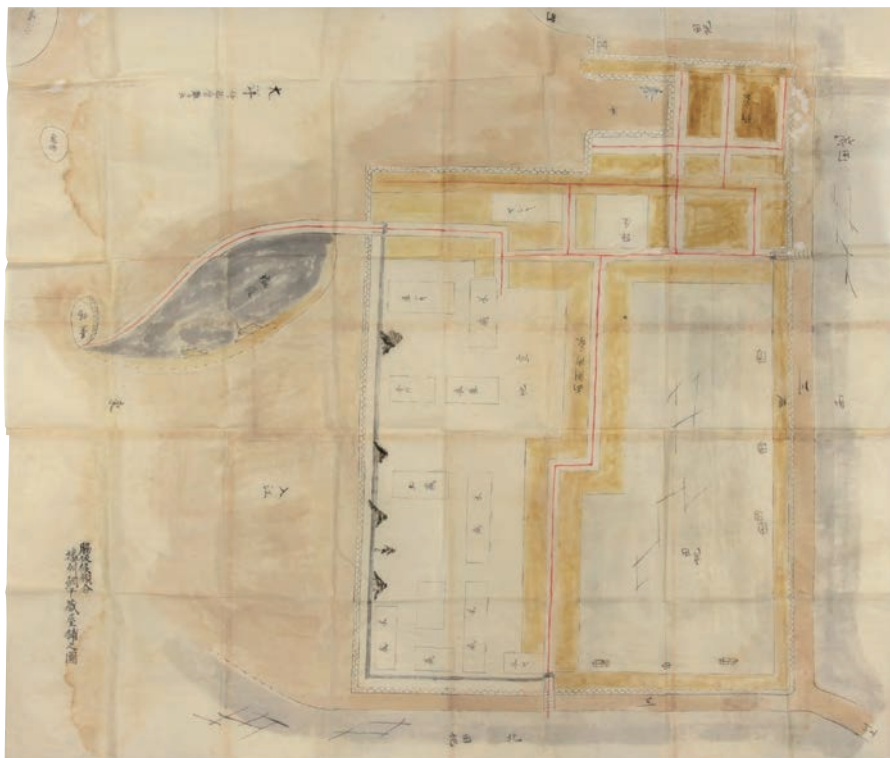
先の達書の添書。すすんで降伏したときには、「寛典」の処置をとるよう指示している。



25 播州姫路所々小絵図

S4-526 袋入

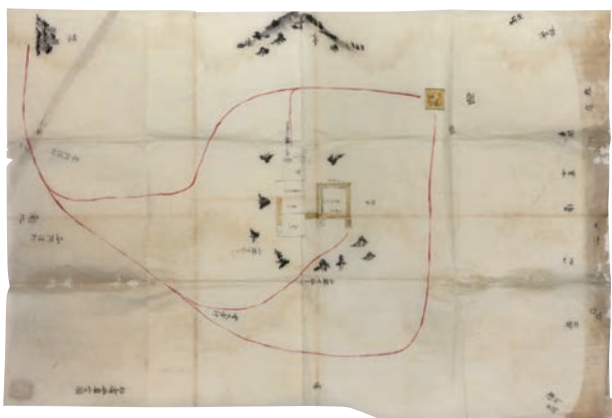
姫路藩征討のために作られた絵図5枚が一緒に袋に入られている。



25-1 脇坂侯領分播州網干蔵屋敷之図

1枚 未詳 S4-526-5 90.8×108.6

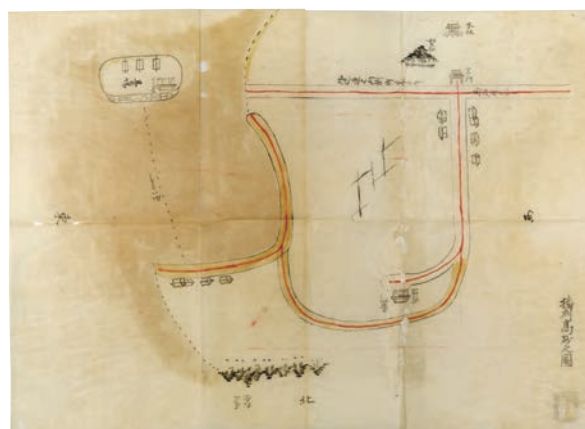
龍野藩の網干蔵屋敷の絵図。岡山藩が接収する際に作成したか。



25-2 仁寿山奥山之図

1枚 未詳
S4-526-4 80.0×54.6

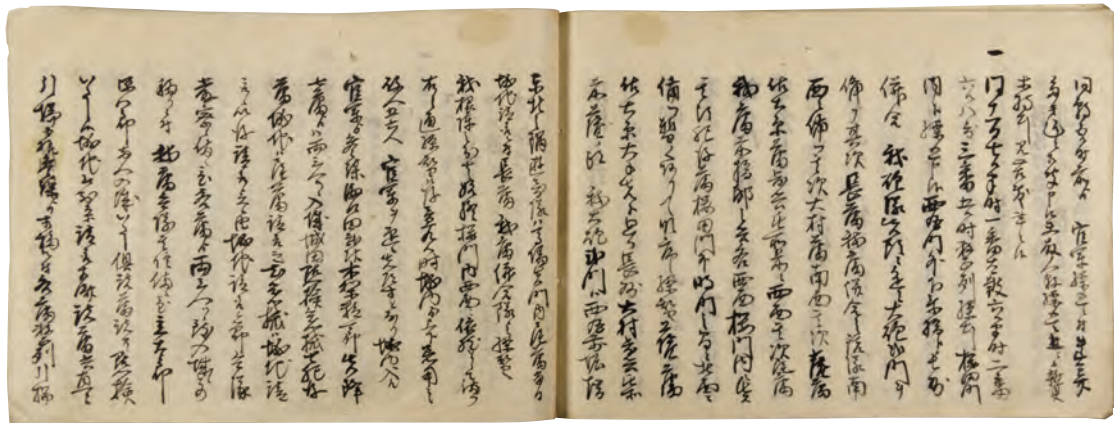
麻生山の花厳寺と姫路藩の河合道臣が建てた「学校」(仁寿山巒)を描いた図。左上方に姫路城が描かれている。



25-3 播州高砂之図

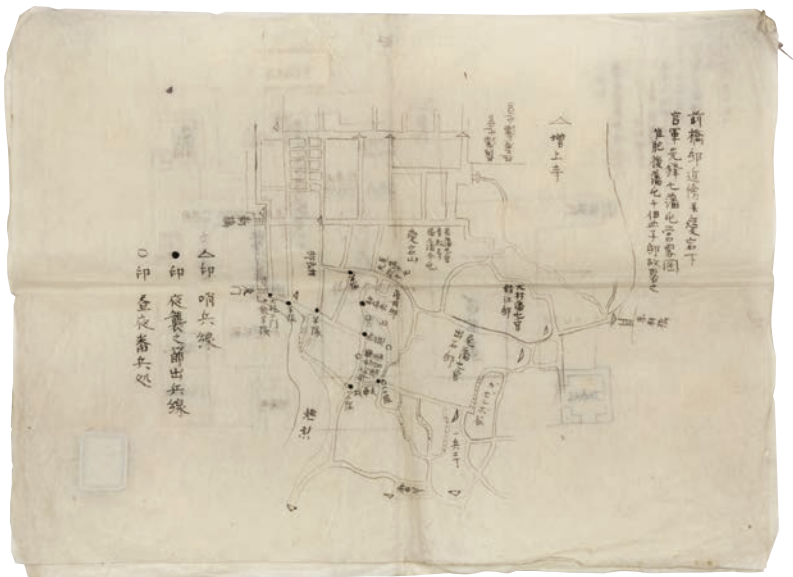
1枚 未詳
S4-526-2 39.5×54.6

高砂浦と海上の台場を描く図。名所の「相生松」「高砂松」も描かれている。



26 関東森下ヨリ来報写
 1冊 [慶応4年4月15日](1868年5月7日)
 S4-7 16.8×23.6

関東に出陣していた森下立太郎が江戸から国元に送った報告書の写し。3月24日から4月14日までの行動が記されている。4月11日の江戸城開城の様子も見える。



27 前橋邸近傍 井愛宕下官軍
 先鋒七藩屯営略図
 1枚 未詳 S4-243-1 24.1×33.0

江戸に入った岡山藩兵は、旧前橋藩邸に駐屯した。そのときの様子を周辺の官軍の配置とともに描いた略図。

28 下総国戦争之図
 1枚 未詳
 S4-430 40.6×54.9 封筒入

慶応4年(1868)閏4月3日の八幡での戦闘から同9日の久留里城下の戦闘まで、下総での旧幕府軍との戦闘の経過を図示したもの。該当地に付箋が貼られている。





29 [奥州平城攻撃略図]

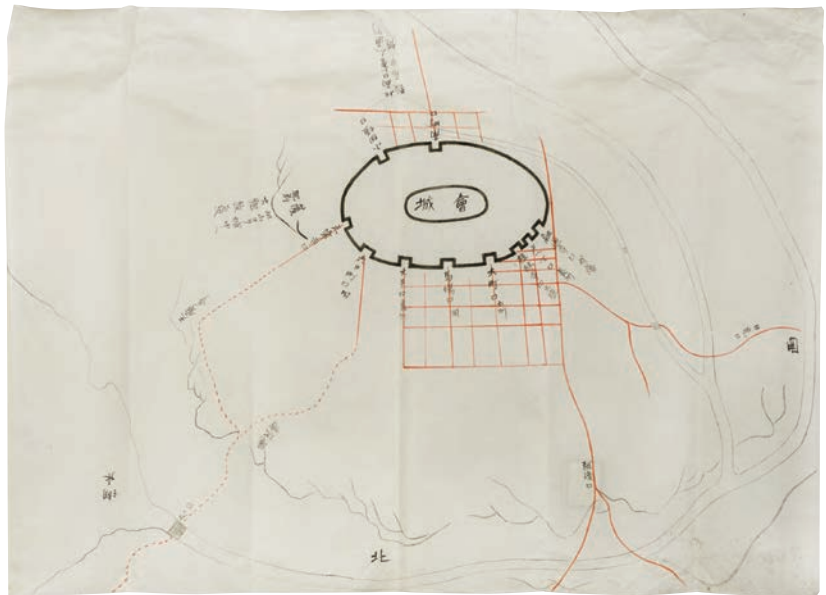
1枚 未詳 S4-238 47.7×79.2

奥州平城での慶応4年(1868)6月29日・7月13日の戦闘を描いた略図。森下立太郎・浅野忠次郎・雀部八郎など岡山藩兵の活躍が示されている。

30 [会津攻城略図]

1枚 未詳 S4-239 27.7×39.6

会津城攻撃の略図。幕府軍は手前の北方から攻撃した。融通寺口から岡山藩兵が攻めたことが示されている。



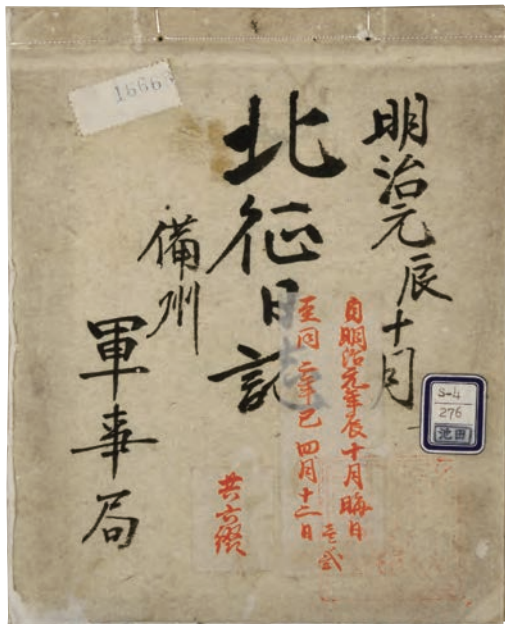
31 [郷士奉公書]

2冊 未詳
D3-2884・2885 27.4×20.0

農兵隊員として戊辰戦争に参加し、郷士に取り立てられた者の勤功を記したもの。7冊ある。例えば、児島郡味野村出身の荻野改次郎は、農兵取立とともに耕戦隊に参加し、森下・浅野の配下で関東・東北を歴戦、帰国後郷士に取り立てられ、切米18俵3人扶持を与えられた。



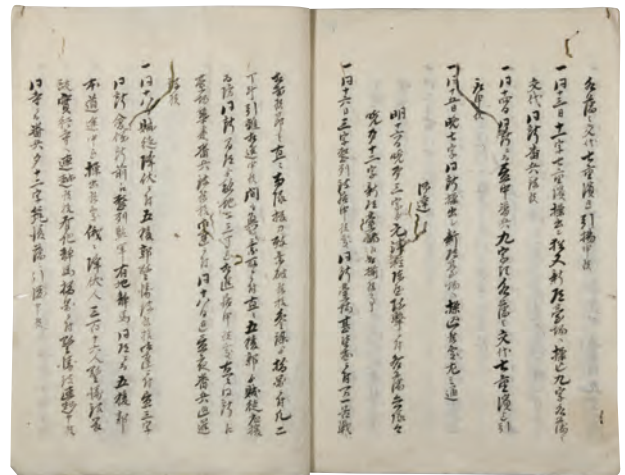
(4) 箱館戦争



32 北征日誌

1冊 明治元年10月晦日(1868年12月13日)～
S4-276 15.6×19.8

明治元年(1868)10月晦日に箱館出張を命じられて以降、翌明治2年(1869)4月12日までの奥州滞陣中の岡山藩兵の動向を記した日誌。岡山藩軍事局が作成した現地での記録と思われる、他部局が写した同名の史料が他に何冊か残されている。



33 征討日誌

1冊 明治2年5月22日(1869年7月1日)
S4-281 24.6×17.2

4月21日江差を出発し、五稜郭の戦い後の5月22日までの行動を報告したもの。筆者は、岡山藩糾武隊の石黒甚右衛門。



34-1

34 〔丹羽次郎右衛門ヨリ差出箱館絵図〕

包紙入

丹羽次郎右衛門は慶応4年(1868)8月、第二大隊大隊令官として岡山を発足、京都・江戸・水戸を経て箱館出兵に参加した。五稜郭総攻撃が終わった後、明治2年(1869)8月岡山へ帰陣している。

34-1 箱館凡絵図面

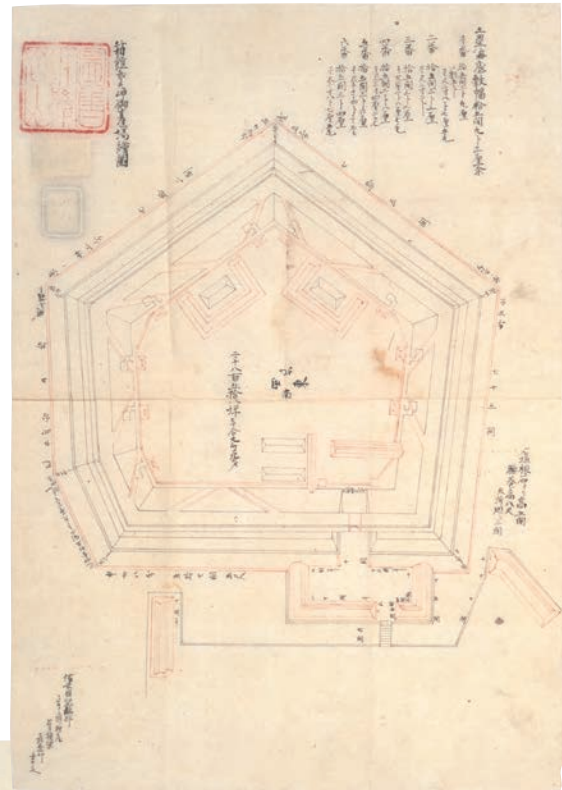
1枚 未詳
T12-54 157.8×148.5

箱館の町並みを描いた図。民家以外の役所・寺社・台場などが黄色で示されている。

34-2 箱館弁天岬御台場絵図

1枚 未詳 T12-55 40.1×28.0

箱館弁天岬沖の台場の見取り図。この台場には最後まで旧幕府軍が立て籠もり、抵抗した。児島郡宮ノ浦村石方棟梁喜三郎が描いている。石垣・土塁の情報が詳しいのはそのためである。石工が藩兵に同行していたことが分かる。



34-2

34-3 弁天島之図

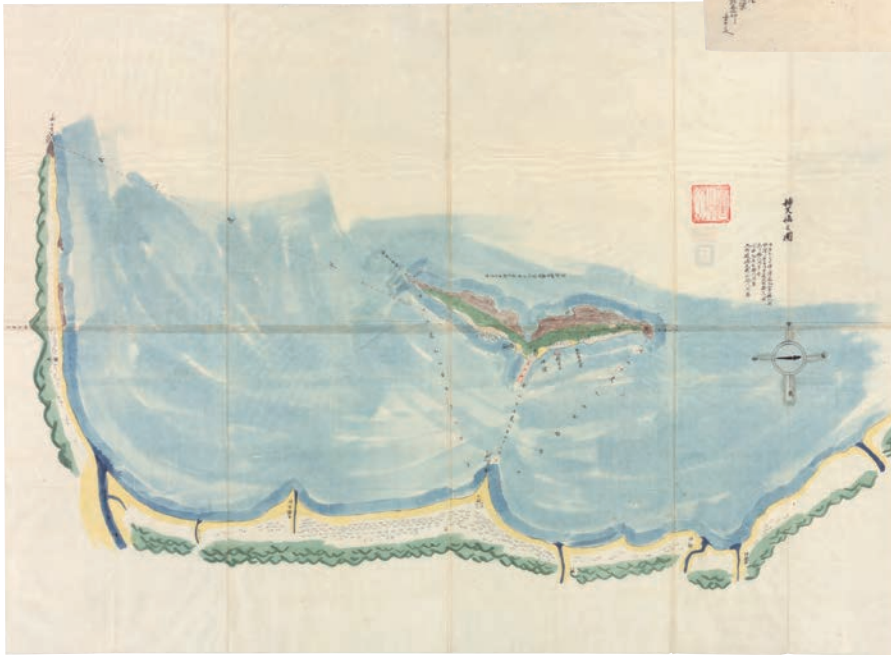
1枚 未詳 T12-56 79.7×108.2

江差沖の鷗鳴(弁天島ともいう)の絵図。鷗鳴は廻船の繋留地になっていた。津花岬・スネコ岬からの距離が示されている。

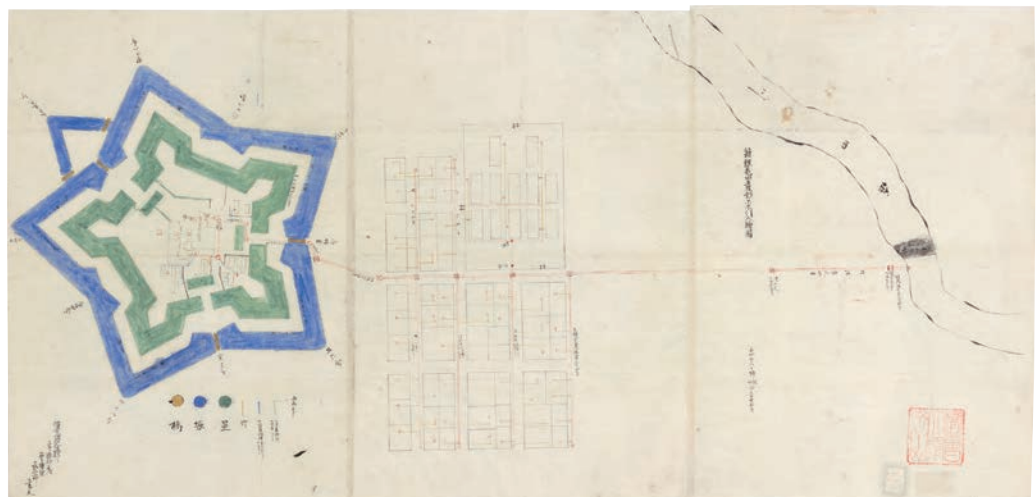
34-4 箱館亀田五稜郭上水引入絵図

1枚 未詳 T12-57 40.0×82.9

五稜郭へ亀田川から上水を引き入れる木樋の配管の様子を描いた図。宮ノ浦石方棟梁喜三郎が作成した。



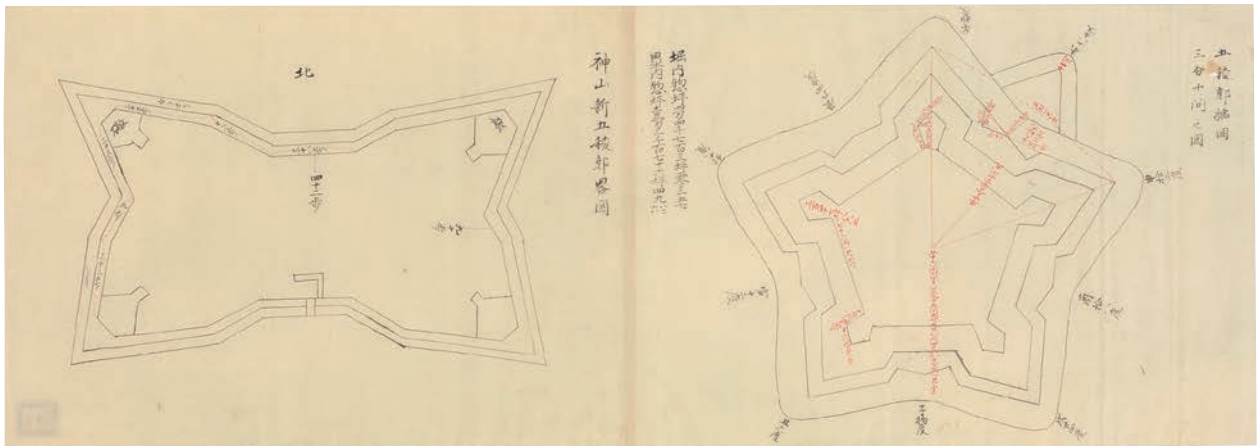
34-3



34-4

35 〔蝦夷地戦争略図〕

T12-21 袋入



35-1 五稜郭・新五稜郭縮図

1枚 未詳 T12-21-6 27.6×78.2

五稜郭・新五稜郭を描いた図。縮尺は「三分十間」(2000分の1)とある。



35-2 〔四月廿三日より廿五日まで
中二股戦闘図〕

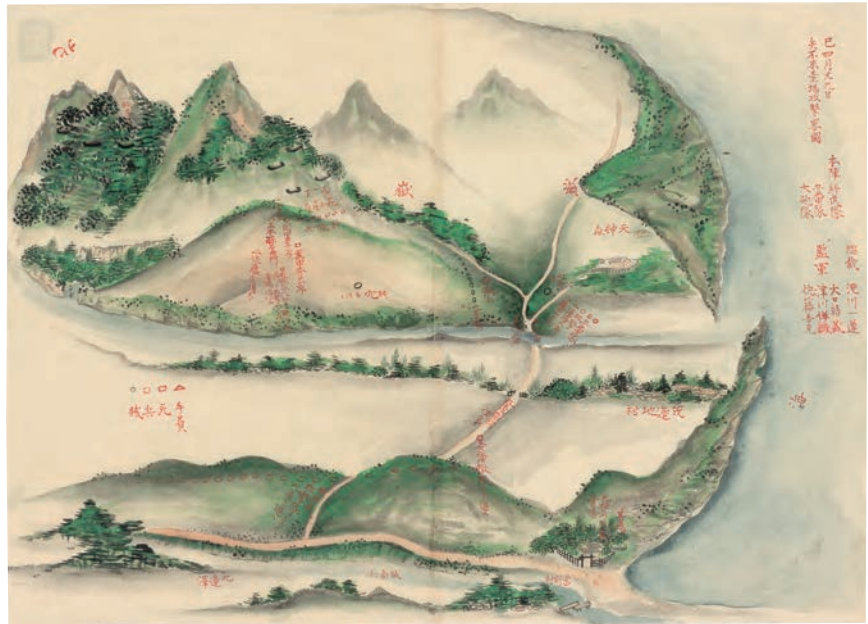
1枚 未詳
T12-21-3 54.2×39.4

4月23日から25日まで、二股岳周辺で行われた戦闘を描いた図。岡山藩兵の行動、死傷の氏名・場所などを朱書きで記す。戦闘後、6か所に台場を築き、25日より5月朔日まで交替で番兵を配置した。

35-3 巳四月 廿九日矢不來台場攻撃略図

1枚 未詳 T12-21-2 39.1×54.2

明治2年(1869)4月29日の矢不來台場攻撃の様子を描いた図。岡山藩兵の配置、隊員の死傷などが朱書きで示されている。矢不來を追われた旧幕府軍は五稜郭に敗走する。



35-3



35-4

35-4 五月朔日賊夜襲我兵戦死之略図

1枚 未詳 T12-21-5 27.6×78.2

5月朔日夕方に七里浜へ旧幕府軍が襲撃、岡山藩兵5名が戦死した状況を示した図。

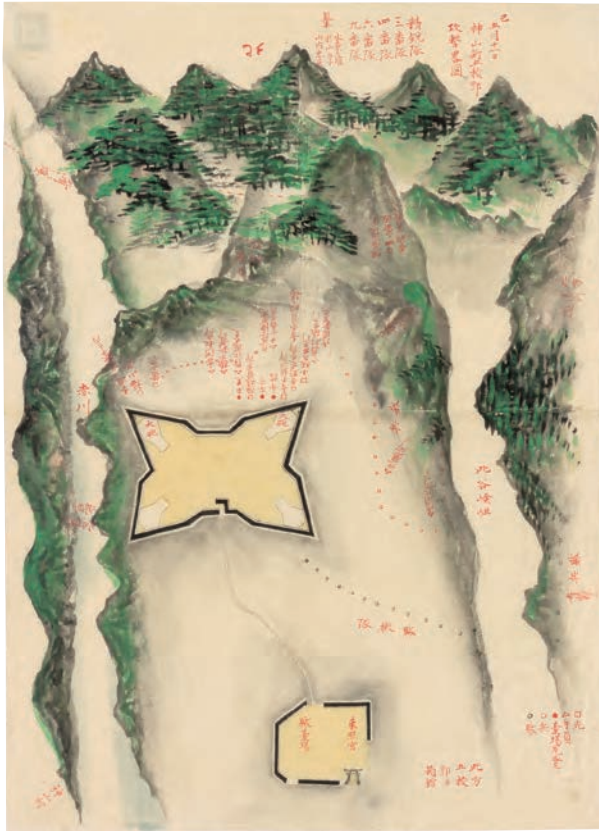
35-5 五月十一日総攻撃略図

1枚 未詳 T12-21-4 27.7×77.5

5月11日の海陸での総攻撃の様子を描いた図。朱丸で「備」とあるのが、岡山藩兵の位置。陽春丸にも「我兵二十名乗込」とある。

35-5





35-6

35-6 ^{みのごがつじゅういちにちしんごりょうかくこうげりやくず} 巳五月十一日新五稜郭攻撃略図

1枚 未詳 T12-21-1 54.6×39.4

明治2年(1869)5月11日の新五稜郭攻撃の様子を描いた図。死傷や台場先登など隊員の行動が朱書きで示されている。

36 ^{えさしすもうとりやましようこんじょうりやくず} 江差角力取山招魂場略図

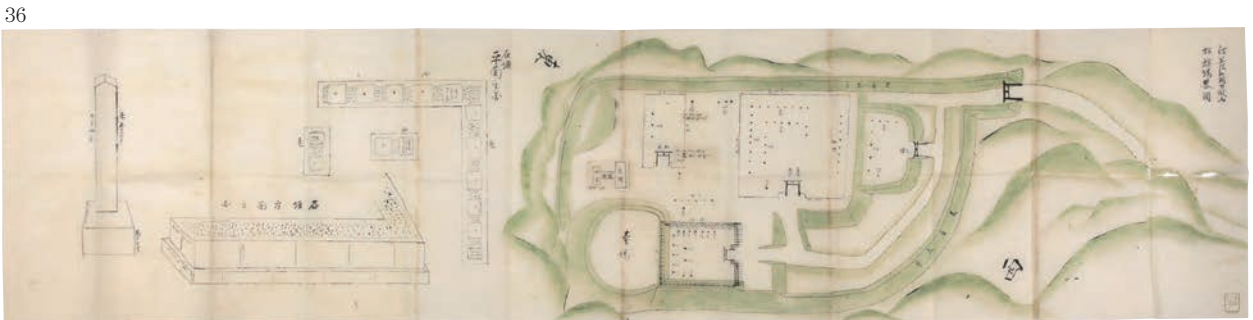
1枚 未詳 S4-254 33.8×144.6 袋入

江差角力取山に作られた箱館戦争の死者の招魂場を描いた図。手前台場の横の区画が岡山藩兵の墓所で、16名の名前が記されている。

37 ^{えぞちえず} [蝦夷地絵図]

1枚 未詳 S4-433-8 57.4×109.4

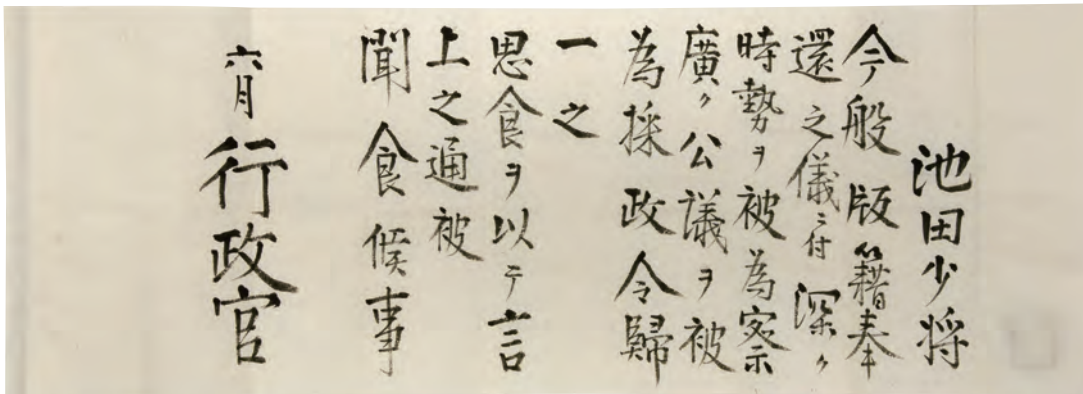
箱館戦争関係の資料を入れた袋に入れられていた蝦夷地の絵図。こうした地図が、当時蝦夷地に派遣された兵士たちに、蝦夷地についての知識を提供したものと考えてもよいだろう。



36



(5) 廃藩と岡山県の成立



38-1

38-1 [版籍奉還につき行政官達書写]

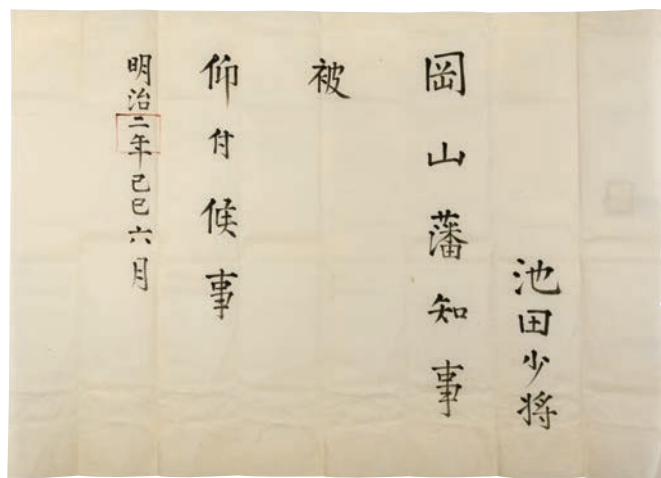
1通 明治2年6月(1869年7月)
S1-865-1 17.6×49.1

岡山藩主池田章政による版籍奉還の申し出を認める行政官の文書の写し。38-2とともに包紙に入られている。

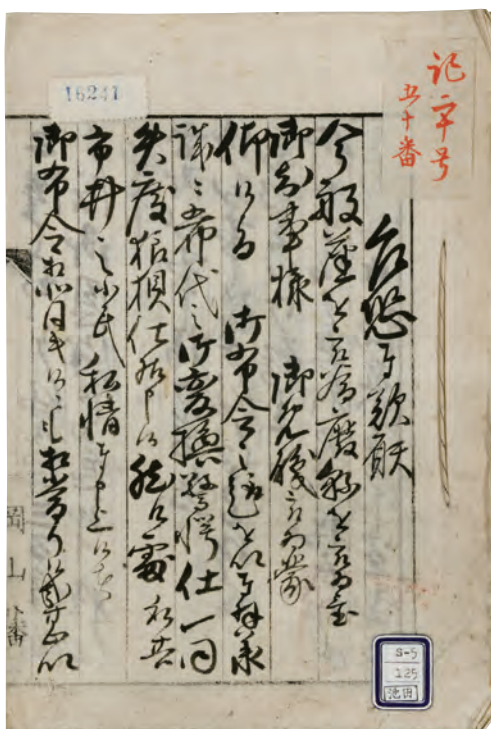
38-2 [藩知事任命書写]

1通 明治2年6月(1869年7月)
S1-865-3 17.2×35.4

版籍奉還を受けて、池田少将(章政)を岡山藩知事に任命する辞令書。本紙は檀紙であるとの添書が同封されている。



38-2



39 [岡山藩印]

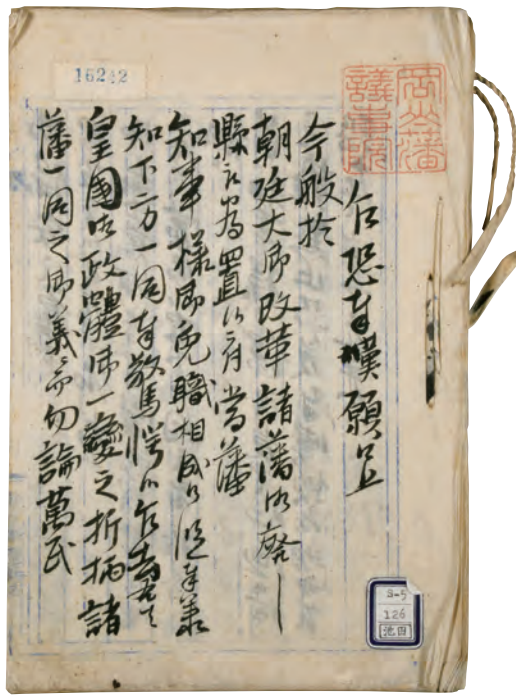
2枚 未詳 S5-411 17.6×9.5 包紙入

版籍奉還にともなって作られた岡山藩の印影。2枚が包紙に入っていた。

40 年恐奉歎願

1冊 明治4年8月(1871年9月) S5-125 24.6×16.6

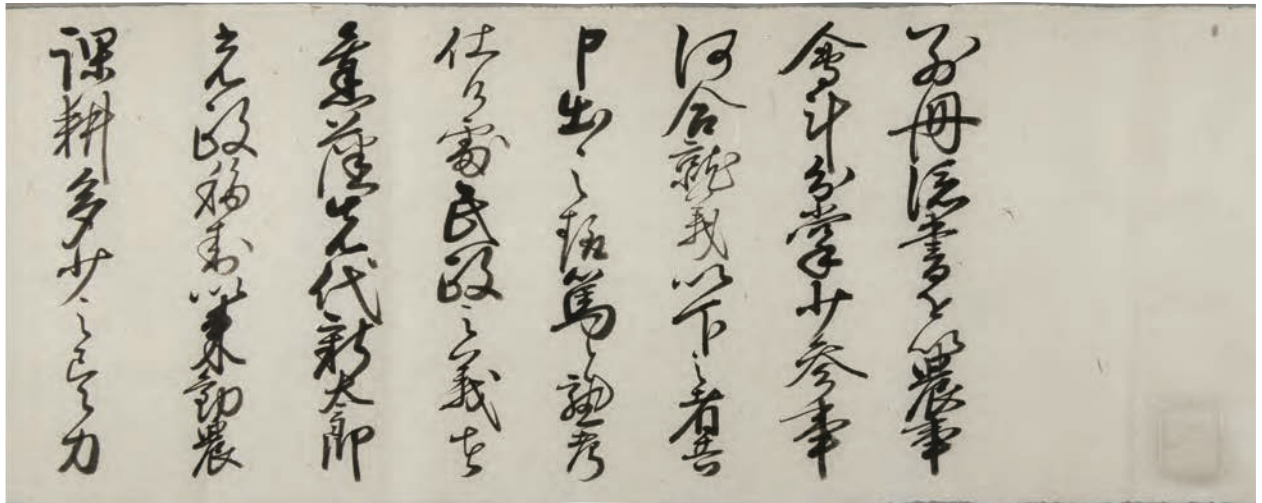
廃藩置県後も前知事(池田章政)の留任を求める岡山市中名主・年寄の願書の写し。「岡山藩」の野紙が使用されている。



おそれながらたんがんでまつこうじょう
41 乍恐奉歎願口上

1冊 明治4年8月(1871年9月) S5-126 24.7×16.6

前知事の留任を求める岡山県下各郡村々里正・目代・惣代の願書の写し。池田光政以来の善政と版籍奉還後の前知事の業績をあげて、留任を歎願している。「議院兼応接方」の野紙が使用されている。



はんしゅりゅうにんねがいしつそう だいさんじなどがんしょうつし
42 [藩主留任願執奏につき大参事等願書写]

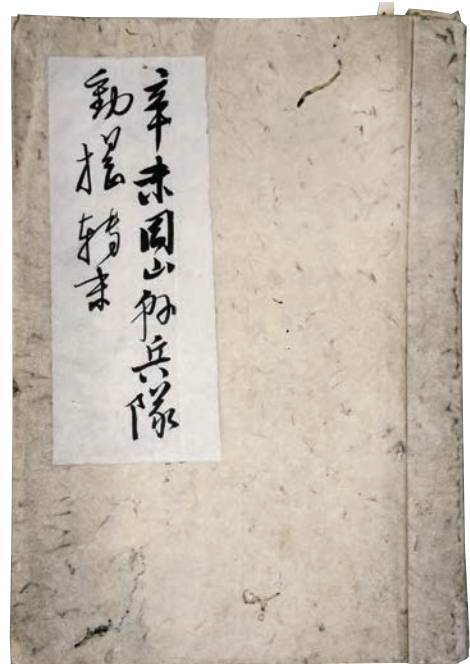
1通 明治4年8月(1871年9月) S5-401-2 16.0×156.0

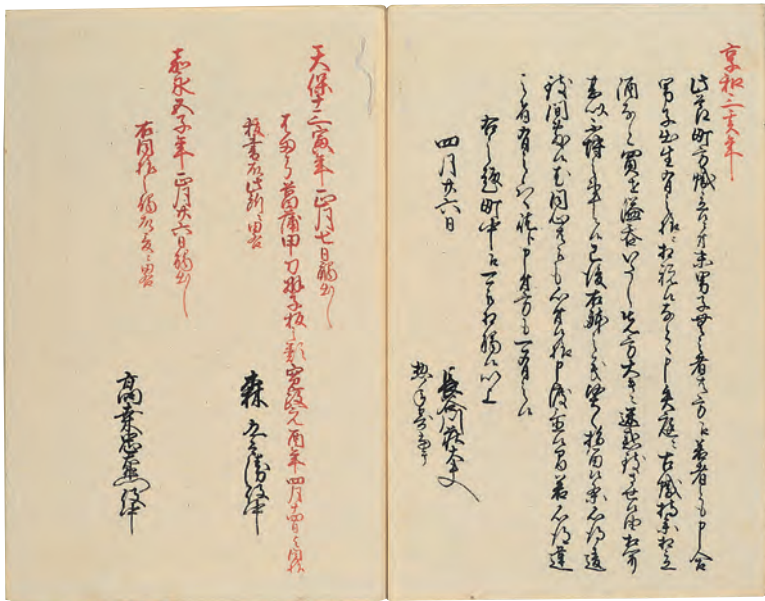
岡山藩大参事伊木忠澄・権大参事中村正起・同森下景端が岡山市中および村々からの歎願を執奏してほしいと太政官に願い出たもの。

しんびおかやまけんへいたいどうようてんまつ
43* 辛未岡山県兵隊動揺転末

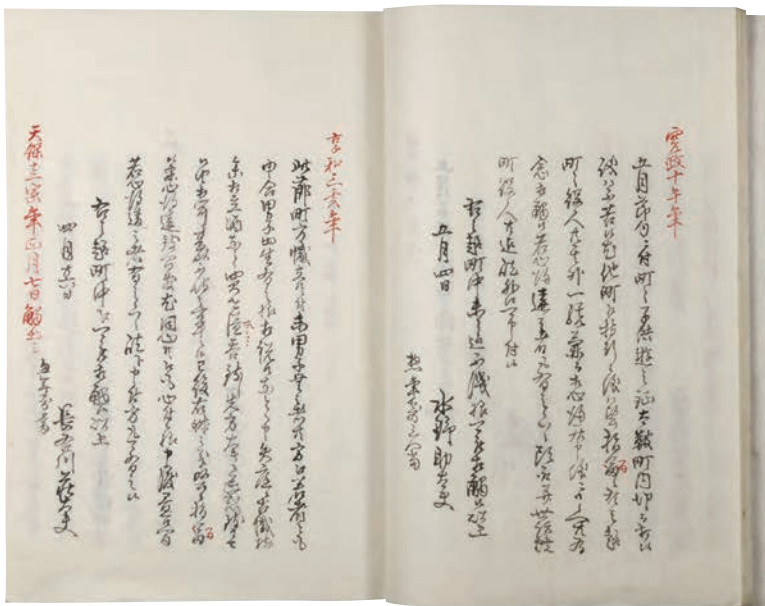
1冊 [明治4年](1871年) 23.8×16.7
(岡山県立記録資料館所蔵)

新しく置かれる県の人事をめぐって大参事の伊木忠澄らと権大参事森下景端らのグループが対立した事件の経過を記したもの。筆者は森下景端。いわゆる旧藩の上層と下層との対立が表面化したもので、最終的には、伊木や森下はじめ関係者が官を辞すことで終結した。

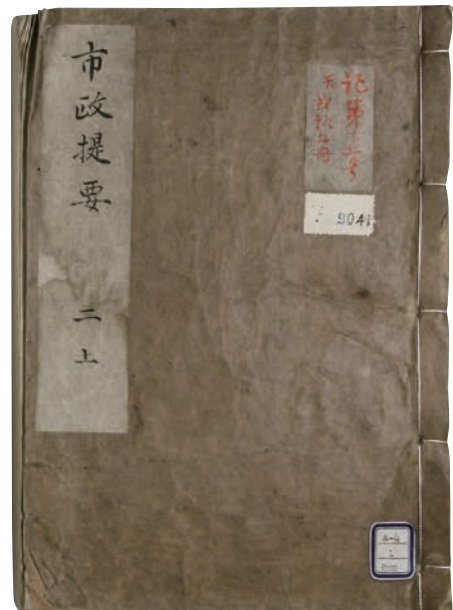




44-1



44-2



44-1* 市政提要

43冊 未詳 27.2×19.7 (岡山県立図書館所蔵)

岡山藩が岡山城下町に触れた法令を編纂したもの。廃藩置県にもなつて岡山藩から岡山県に移管された史料の一つ。表紙に「明治廿八年受入」の「岡山県内務部備品」のラベルと「岡山県庶務課記録掛」の朱印がある。

44-2 市政提要

24冊 未詳 A4-1、21 26.4×19.0

池田家が岡山県から原本(44-1)を借り受けて作成した副本。「本ノマ」などの朱書の注記や訂正が書き込まれている。



45* おかやまけんかんないず
岡山県管内図

1枚 明治12年2月(1879年2月) 74.0×69.0 (岡山県立記録資料館所蔵)

明治9年(1876)成立後の岡山県の様子を示す最も古い地図。現在は兵庫県に編入されている10か村が、まだ岡山県に属している。著者は元岡山藩絵師の長谷川勝庵、岡山中之町渡邊源米が発行した。

出展資料目録

番号	資料名	頁数	年代	法量(h×w, cm)	整理番号	
1	征長始末	2冊	未詳	28.0×20.4	S4-126-1・2	
2	口達之覚	1通	亥〔文久3年〕10月22日(1863年12月2日)	16.0×578.8	S1-174	
3	〔吉田屋十郎右衛門風説書〕				S1-200	
3-1	風説書上	1通	〔慶応元年〕3月20日(1865年4月15日)	16.0×40.8	S1-200-4	包紙入
3-2	風説書上	1通	〔慶応元年〕3月19日(1865年4月14日)	16.0×56.4	S1-200-3	包紙入
4	〔長州征討攻防略図〕	1枚	未詳	32.6×46.4	S1-241-4	
5	〔石州口戦闘図〕	1枚	未詳	38.9×118.8	T12-114	
6	〔芸州口戦闘図〕	1枚	未詳	66.9×49.7	S1-241-6	
7	長藩御処置方ニ付御建白書				S3-22	包紙入
7-1	御自筆御建白写	1冊	〔慶応2年〕6月23日(1866年8月3日)	24.4×16.3	S3-22-1	
7-2	〔御建白指出につき書付〕	1通	未詳	16.0×177.7	S3-22-2	
7-3	御趣意書	1通	〔慶応2年〕6月25日(1866年8月5日)	16.0×38.2	S3-22-3	
8	長州浪士備中倉敷并 浅尾陣屋江乱入騒動一件	1冊	未詳	28.4×18.4	S4-333	
9	〔池田隼人宛少将達書〕	1通	〔慶応2年〕4月15日(1866年5月29日)	18.0×70.3	S4-531	
10	〔森下立太郎奉公書〕	1冊	未詳	27.0×19.6	D3-2595	
11	〔因幡宛備前書状案〕	1通	〔慶応3年〕10月25日(1867年11月20日)	19.1×120.4	S1-123	包紙入
12	〔御国江報知之扣〕	1冊	〔慶応4年〕正月5日(1868年1月29日)	25.0×17.3	S1-25	
13	松山征討始末	11冊	未詳	24.5×16.7	S4-269~272 S4-43~47、 49、86	
14	備中国巡覧大絵図	1鋪	嘉永7年2月(1854年2月)刊	132.4×85.0	T1-23	
15	〔松山藩家老中宛熊田恰書状写〕	1通	〔慶応4年〕正月18日(1868年2月11日)	15.4×69.9	S4-76	包紙入
16	熊田恰首級差出候節添書之写	1通	〔慶応4年〕正月22日(1868年2月15日)	32.0×44.6	S4-374	包紙入
17	城地御預につき松山藩家老中願書写	1通	慶応4年正月(1868年1月)	31.8×49.6	S4-373-2	包紙入
18	〔松山城絵図〕	1枚	未詳	80.3×109.7	S4-38	
19	備中国前松山領村々郷中見取絵図				S4-375	袋入
19-1	哲多郡荻尾村絵図	1枚	未詳	27.1×38.7	S4-375-1	
19-2	下道郡山田村絵図	1枚	未詳	27.2×39.5	S4-375-24	
19-3	下道郡久代村絵図	1枚	慶応4年3月(1868年3月)	67.3×78.2	S4-375-33	
20	乍恐奉敷願口上	1通	慶応4年閏4月(1868年5月)	28.6×289.0	S4-376	包紙入
21	〔備前少将宛伊東播磨守書状〕	1通	〔慶応4年〕2月17日(1868年3月10日)	17.6×177.2	S1-88-1	
22	日置帯刀摂州神戸通行之節 外国人江発砲之始末書類	1冊	未詳	24.5×17.2	S6-117 (S6-120)	
23	瀧善三郎神戸事件日置家記ノ写・ 同人遺書并辞世ノ歌写	1冊	未詳	24.4×16.8	S6-116 (S6-123)	
24-1	〔四藩征伐につき達書写〕	1通	〔慶応4年〕正月10日(1868年2月3日)	17.6×63.7	S4-427-6	
24-2	〔四藩征伐につき添書写〕	1通	〔慶応4年〕正月10日(1868年2月3日)	17.6×38.8	S4-427-9	
25	播州姫路所々小絵図				S4-526	袋入
25-1	脇坂侯領分播州網干蔵屋舗之図	1枚	未詳	90.8×108.6	S4-526-5	
25-2	仁寿山奥山之図	1枚	未詳	80.0×54.6	S4-526-4	
25-3	播州高砂之図	1枚	未詳	39.5×54.6	S4-526-2	

番号	資料名	頁数	年代	法量(h×w, cm)	整理番号	
26	関東森下ヨリ来報写	1冊	[慶応4年4月15日](1868年5月7日)	16.8×23.6	S4-7	
27	前橋邸近傍并愛宕下官軍 先鋒七藩屯営略図	1枚	未詳	24.1×33.0	S4-243-1	
28	下総国戦争之図	1枚	未詳	40.6×54.9	S4-430	封筒入
29	[奥州平城攻撃略図]	1枚	未詳	47.7×79.2	S4-238	
30	[会津攻城略図]	1枚	未詳	27.7×39.6	S4-239	
31	[郷土奉公書]	2冊	未詳	27.4×20.0	D3-2884・2885	
32	北征日誌	1冊	明治元年10月晦日(1868年12月13日)～	15.6×19.8	S4-276	
33	征討日誌	1冊	明治2年5月22日(1869年7月1日)	24.6×17.2	S4-281	
34	[丹羽次郎右衛門ヨリ差出箱館絵図]					包紙入
34-1	箱館凡絵図面	1枚	未詳	157.8×148.5	T12-54	
34-2	箱館弁天岬御台場絵図	1枚	未詳	40.1×28.0	T12-55	
34-3	弁天島之図	1枚	未詳	79.7×108.2	T12-56	
34-4	箱館亀田五稜郭上水引入絵図	1枚	未詳	40.0×82.9	T12-57	
35	[蝦夷地戦争略図]				T12-21	袋入
35-1	五稜郭・新五稜郭縮図	1枚	未詳	27.6×78.2	T12-21-6	
35-2	[四月廿三日より廿五日まで 中二股戦闘図]	1枚	未詳	54.2×39.4	T12-21-3	
35-3	巳四月廿九日矢不來台場攻撃略図	1枚	未詳	39.1×54.2	T12-21-2	
35-4	五月朔日賊夜襲我兵戦死之略図	1枚	未詳	27.6×78.2	T12-21-5	
35-5	五月十一日総攻撃略図	1枚	未詳	27.7×77.5	T12-21-4	
35-6	巳五月十一日新五稜郭攻撃略図	1枚	未詳	54.6×39.4	T12-21-1	
36	江差角力取山招魂場略図	1枚	未詳	33.8×144.6	S4-254	袋入
37	[蝦夷地絵図]	1枚	未詳	57.4×109.4	S4-433-8	
38-1	[版籍奉還につき行政官達書写]	1通	明治2年6月(1869年7月)	17.6×49.1	S1-865-1	
38-2	[藩知事任命書写]	1通	明治2年6月(1869年7月)	17.2×35.4	S1-865-3	
39	[岡山藩印]	2枚	未詳	17.6×9.5	S5-411	包紙入
40	乍恐奉歎願	1冊	明治4年8月(1871年9月)	24.6×16.6	S5-125	
41	乍恐奉歎願口上	1冊	明治4年8月(1871年9月)	24.7×16.6	S5-126	
42	[藩主留任願執奏につき 大参事等願書写]	1通	明治4年8月(1871年9月)	16.0×156.0	S5-401-2	
43*	辛未岡山県兵隊動揺転末 (岡山県立記録資料館所蔵)	1冊	[明治4年](1871年)	23.8×16.7		
44-1*	市政提要 (岡山県立図書館所蔵)	43冊	未詳	27.2×19.7		
44-2	市政提要	24冊	未詳	26.4×19.0	A4-1、21	
45*	岡山県管内図 (岡山県立記録資料館所蔵)	1枚	明治12年2月(1879年2月)	74.0×69.0		

[謝辞] 出品に御協力いただいた岡山県立記録資料館・岡山県立図書館に感謝いたします。

池田家文庫絵図展

年度	展示テーマ	会期
平成9	絵図にみる岡山城	1997年10月24日～11月2日
平成10	岡山藩と海の道	1998年10月23日～11月1日
平成11	後楽園と岡山藩	1999年10月23日～11月1日
平成12	備前慶長国絵図のふしぎ	2000年10月23日～11月1日
平成13	岡山藩江戸藩邸ものがたり	2001年10月23日～11月1日
平成14	開けゆく岡山平野 岡山藩の新田開発(1)	2002年10月23日～11月1日
平成15	新田開発をめぐる争い 岡山藩の新田開発(2)	2003年10月23日～11月1日
平成16	岡山城下町をあるく	2004年10月23日～11月1日
平成17	江戸時代の岡山 池田家文庫絵図名品展	2005年9月29日～10月10日
平成18	戦さと城	2006年10月26日～11月12日
平成19	陸の道	2007年11月16日～12月2日
平成20	日本と「異国」	2008年11月1日～11月16日
平成21	岡山藩の教育	2009年9月29日～10月18日
平成22	絵図にみる中国四国地方の城下町	2010年11月16日～11月28日
平成23	江戸時代の巨大手描き絵図	2011年10月22日～11月6日
平成24	日本六十余州図の世界	2012年11月10日～11月25日
平成25	開国と岡山藩	2013年11月4日～11月17日
平成26	岡山藩と明治維新	2014年11月1日～11月16日

記念講演会・パネルディスカッション

年度	記念講演会	記念講演会講師(役職は当時)	期日
平成9	絵図を読む	岡山大学文学部 教授 倉地克直	1997年10月25日
平成10	瀬戸内の交流	岡山県総合文化センター 総括学芸員 竹林 榮一	1998年10月23日
平成11	日本庭園と後楽園	岡山大学農学部 教授 千葉喬三	1999年10月23日
平成12	江戸幕府の国絵図事業	東亜大学 教授 川村博忠	2000年10月28日
平成13	岡山藩の江戸藩邸	東京大学史料編纂所 教授 宮崎勝美	2001年10月23日
平成14	津田永忠と岡山藩の土木事業	岡山大学環境理工学部 教授 名合宏之	2002年10月26日
平成15	近世の境界論争と裁判	東京大学史料編纂所 助教授 杉本史子	2003年10月23日
平成16	岡山城下町を掘る ～絵図と遺構～	岡山市デジタルミュージアム開設事務所 乗岡 実	2004年10月23日
平成17	池田家文庫絵図の見方	岡山大学文学部 教授 倉地克直	2005年10月1日
平成18	「長久手合戦図屏風」の世界	茨城大学人文学部 教授 高橋 修	2006年10月26日
平成19	江戸時代の陸上交通	岡山県立記録資料館 館長 在間宣久	2007年11月23日
平成20	「鎖国」の中の日本と朝鮮	名古屋大学文学部 教授 池内 敏	2008年11月1日
平成21	儒教教育と武士の人間形成	京都大学教育学研究科 教授 辻本雅史	2009年10月3日
平成22	デジタルマップで廻る城下町	徳島大学大学院ソシオ・アーツ・サイエンス研究部 教授 平井松午	2010年11月20日
平成23	国絵図復元の成果	東京藝術大学大学院 准教授 荒井 経	2011年10月23日
平成24	徳川家光と日本	京都大学名誉教授 藤井譲治	2012年11月18日
平成25	開国と開港	東京大学史料編纂所 教授 横山伊徳	2013年11月9日
平成26	幕末維新时期の岡山	東京大学名誉教授 宮地正人	2014年11月8日

年度	パネルディスカッション	パネラー・司会	期日
平成23	国絵図復活	東京大学史料編纂所 教授 杉本史子 東京藝術大学大学院 准教授 荒井 経 電気通信大学 准教授 佐藤賢一 筑波大学大学院 博士前期課程 中村裕美子 国絵図研究会 会員 青木充子 [司会] 東京大学大学院 准教授 中村雄祐	2011年10月23日

平成26年度企画展 池田家文庫絵図展 岡山藩と明治維新

発行日/平成26年11月1日 主催/岡山大学附属図書館 岡山シティミュージアム

発行/岡山大学附属図書館 〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1 印刷/株式会社中野コロタイプ